BenQ

MP721/MP721c デジタル プロジェクタ
メインストリーム シリーズ
取扱説明書

Welcome

著作権

Copyright 2006 by BenQ Corporation. All rights reserved. 本書のいかなる部分も、BenQ Corporation の事前の書面による同意なく、電子的、機械的、磁気的、光学的、化学的、手動その他の手段を問わず、複製、転載、改変、検索システムへの保存、他言語またはコンピュータ言語への翻訳を行うことはできません。

免責

BenQ Corporation は、明示的または暗示的を問わず、本書の内容に関して、特に保証、商業的可能性、特定目的への適合性に関しては、いかなる表明または保証もいたしません。また、BenQ Corporation は、お客様に改訂または修正の通知を行う義務を負うことなく、本書を改訂したり、本書の内容を随時修正する権利を有します。

* DLP、Digital Micromirror Device、および DMD は、Texas Instruments の商標です。その他の商標については、それぞれの企業または組織が著作権を保有しています。

目次

安全にお使いいただくために 1

紹介 5
- プロジェクタの特長 5
- パッケージ内容 6
- プロジェクタ外観ビュー 7
- 制御装置および機能 8

設置 13
- 場所の選択 13
- プロジェクタを天井に取り付けるための安全のための注意 14
- スクリーンサイズの調整 15

接続 18
- ワイヤレス接続（オプション） 18
- ケーブル接続 19

操作 26
- 起動 26
- パスワード機能の使い方 27
- 入力信号の切り替え 29
- 投写イメージの調整 29
- 縦横比の選択 31
- 画像モードの選択 32
- 画像を隠す 33
- オリジナルのスタートアップ画面、MyScreen を作成する 33
- パネル キーロックを有効化する 35
- プレゼンテーションタイマーの設定 36
- 画像の静止 36
- FAQ 機能の使い方 37
- プロジェクタの終了 37
- メニューの操作 38

メンテナンス 46

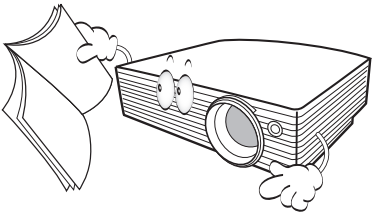
プロジェクタのお手入れ 46
ランプについて 47
トラブルシューティング 53
仕様..... 54
プロジェクタの仕様 54
タイミングチャート 55
外形寸法.....56
保証..... 57
限定保証 57
法規..... 58
FCC 規則 58
EEC 規則 58
MIC 規則 58
WEEE 指令 58

1 安全にお使いいただくために

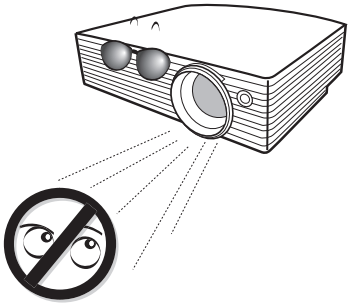
お使いの BenQ プロジェクタは、情報テクノロジ機器の最新の安全規格に適合するように設計され、テストされています。ただし、本装置を安全にご使用いただくために、このガイドおよび装置のマークに記載されている指示に従ってください。

安全上のご注意

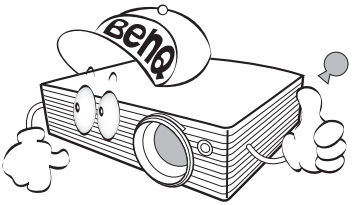
1. **プロジェクタを操作する前に、このユーザーズガイドをお読みください。**またいつでも参照できるように、手の届く場所に保管しておいてください。



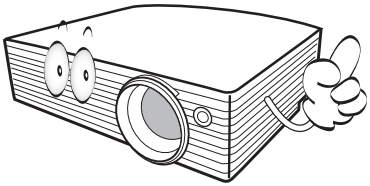
2. **動作中は、プロジェクタのレンズを覗き込まないでください。**光線が強力なので、視力障害を引き起こす恐れがあります。



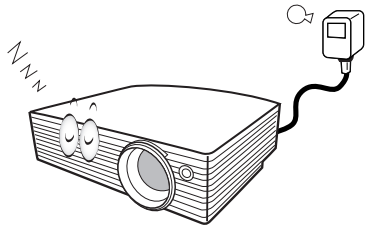
3. **点検修理については、認定サービス担当者にお問い合わせください。**



4. **プロジェクタのランプをオンにするときは、必ずレンズシャッターを開くか、レンズキャップを取り外してください。**



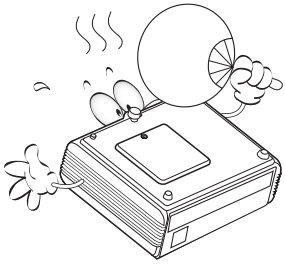
5. 国によっては、電源電圧が一定していない場合もあります。プロジェクタは、電源が AC100 ～ 240V の電圧範囲のときに安全に作動するように設計されていますが、停電や ±10V のサージが発生すると故障する可能性があります。**電源の電圧が変動したり、電源供給が中断したりする地域では、電源安定器、サージプロテクタ、または無停電電源装置（UPS）にプロジェクタを接続することをお薦めします。**



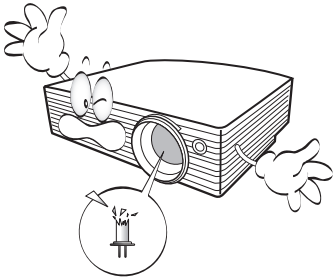
6. プロジェクタが作動しているときに投写レンズを物体で塞ぐと、それが過熱して変形したり、火災の原因となったりします。一時的にランプをオフにするには、プロジェクタかリモコンの **BLANK（ブランク）**ボタンを押してください。

安全上のご注意（続き）

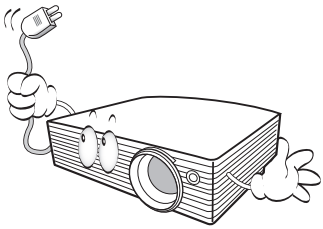
7. ランプは、動作中に非常に高温になります。ランプ部を取り外して交換する場合は、プロジェクタの電源を切ってから 45 分間ほど放置して、プロジェクタを常温に戻してください。



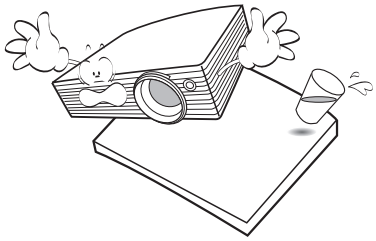
8. ランプは定格寿命より長く使用しないでください。ごくまれですが、定格寿命より長く使用すると、ランプが破裂することがあります。



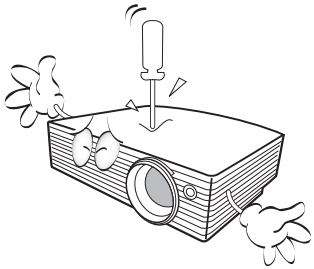
9. ランプ部や電子部品の交換は、必ずプロジェクタの電源プラグを抜いてから行ってください。



10. 本製品は安定した場所に設置してください。本製品が落下して、重大な損傷を受ける恐れがあります。

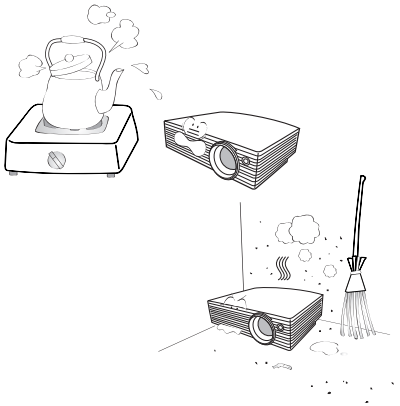


11. 本装置のキャビネットは開けないでください。内部には危険な電圧が流れており、触れると死に至る場合もあります。ユーザーが補修できる部分は専用の取り外し可能なカバーが付いているランプだけです。
いかなる状況においても、これ以外のカバーをご自身で取り外そうとしないでください。補修については、指定された専門の技術者にお尋ねください。

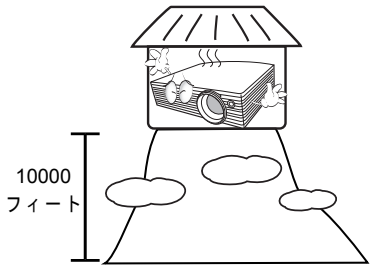


安全上のご注意（続き）

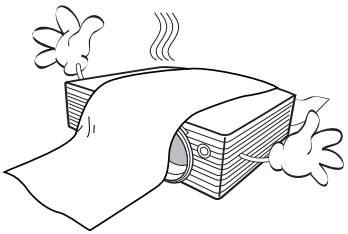
12. 次の場所に本装置を置かないでください。
    - 通気が不十分な場所または密閉されている場所。壁との間隔を 50cm 以上空けて、プロジェクタの周辺の風通しをよくしてください。
    - 窓を締め切った車内など、非常に高温になる場所。
    - 非常に湿度が高い場所、ほこりの多い場所、タバコの煙にさらされる場所。このような場所に置くと、光学部品が汚れ、プロジェクタの寿命が短くなり、画像が暗くなります。



    - 火災報知器に近い場所。
    - 周辺温度が 40ºC / 104ºF を超える場所。
    - 高度が 10000 フィートを超える場所。

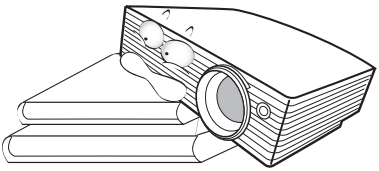


13. 通気孔をふさがないでください。
    - 本製品を毛布などの寝具類、または他の柔らかい物の上に置かないでください。
    - 本製品の上に布などをかぶせないでください。
    - プロジェクタの近くに可燃物を置かないでください。

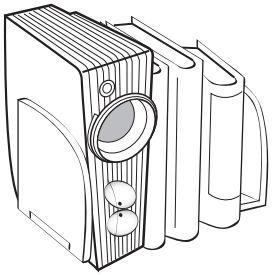


    通気孔がふさがれると、プロジェクタの内部が過熱し、火災が発生することがあります。

14. 使用時は必ず装置を水平な平面上に置いてください。
    - 左右の傾きが 10°、または前後の傾きが 15° を超える状態で使用しないでください。完全に水平になっていない状態でプロジェクタを使用すると、ランプが故障したり損傷することがあります。

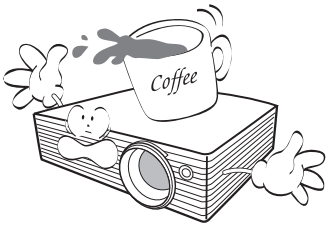


15. 装置を縦向きにしないでください。縦向きにするとプロジェクタが倒れ、けがをしたり、プロジェクタが破損したりする恐れがあります。

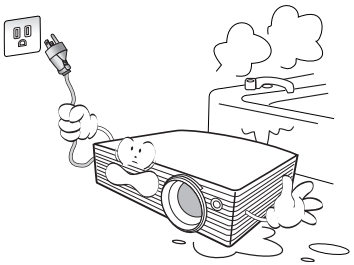


安全上のご注意（続き）

16. 装置の上に乗ったり、物を置かないでください。装置が物理的に損傷するだけでなく、事故やけがの原因になります。

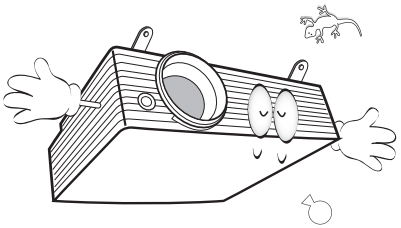


17. プロジェクタの上または近くに液体を置かないでください。プロジェクタ内部に液体がこぼれると故障の原因になります。プロジェクタを濡らした場合は、電源コンセントからプロジェクタを外し、BenQ にご連絡の上プロジェクタの点検をご依頼ください。



18. 本製品を天井に取り付けて、イメージを反転投写することができます。

⚠ 天井に取り付ける場合は、**BenQ** の天井取り付けキットを使用し、しっかりと固定してください。



19. プロジェクタが稼動しているときには、通気孔から熱風と臭気を感じる場合があります。これは正常な状態であり、製品の欠陥によるものではありません。

2 紹介

プロジェクタの特長

このプロジェクタは高性能な光学エンジン投写技術とユーザーフレンドリーな設計を統合しており、高い信頼性と使いやすさを実現しています。

プロジェクタには次のような特長があります。

- パスワード保護機能の選択
- 携帯性に優れたコンパクト設計
- 高品質の手動ズームレンズ
- 最善の画質で表示するワンキー自動調整機能
- イメージの歪みを補正するデジタルキーストーン補正機能
- データ / ビデオ表示を調整可能なカラーバランスコントロール
- 超高輝度投写ランプ
- 1670 万色の表示能力
- 言語を選択できるオンスクリーンディスプレイ (OSD) メニュー
- 消費電力を節約する標準 / 省電力モードの切り替えが可能
- オーディオ入力接続によりミックスモノラルオーディオ対応のスピーカー内蔵
- 高画質なビデオ映像を提供する強力な AV 機能
- コンポーネント HDTV との互換性（YPbPr）

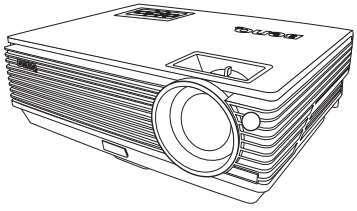
- 投写イメージの明るさは、周辺光の状態および選択した入力ソースのコントラスト / 輝度設定によって変わります。また投写距離の影響を直接受けます。
- ランプの明度は時間の経過に伴い暗くなります。また明度はランプ製造元の仕様によって異なります。これは異常ではなく、正常で予期される変化です。

パッケージ内容

プロジェクタには、PC やビデオ装置への接続に必要なケーブルが同梱されています。丁寧に開梱し、次に示すものがすべて揃っていることを確認してください。不足しているものがある場合は、お買い上げの販売店にご連絡ください。

標準アクセサリ

同梱のアクセサリ類は日本仕様のものであり、本書の図とは異なる場合があります。



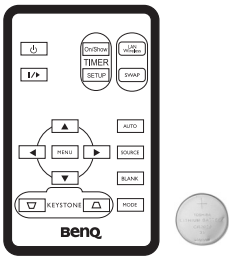
プロジェクタ

携帯用ソフトケース

クイックスタートガイド

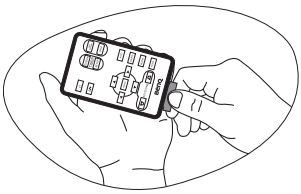
ユーザーガイド CD

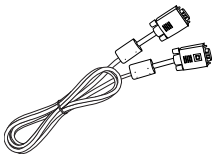
ユーザーズマニュアル



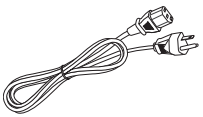
リモコン（電池付き）

リモコンを使用する前につまみを引き抜いてください。





VGA ケーブル



電源コード

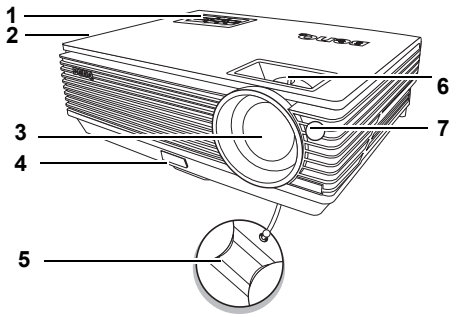
ビデオ ケーブル

別売りアクセサリ

1. スペアランプキット
2. 天井取り付けキット
3. Presentation Plus
4. HDTV (Y/b/Pr) ケーブル
5. RS232 ケーブル
6. ワイヤレスモジュール

プロジェクタ外観ビュー

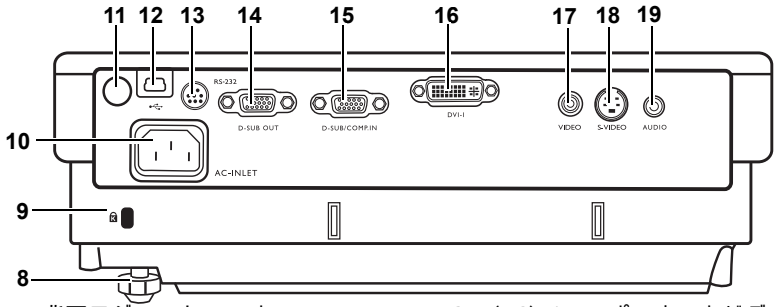
前面 / 上面



1. 外部コントロールパネル
   詳細は、8 ページの " プロジェクタ " を参照してください。
2. 通気（熱気排出）
3. 投写レンズ
4. クイックリリースボタン
5. レンズキャップ
6. ピントリングおよびズームリング
7. 前面赤外線リモートセンサー

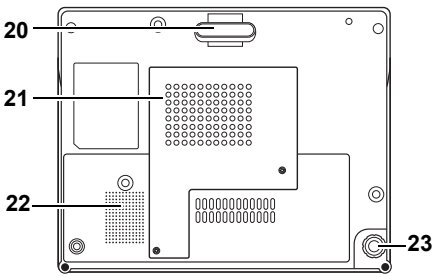
背面

詳細は 18 ページの " 接続 " を参照してください。



8. 背面アジャスタ フット
9. 盗難防止用ケンジントンロックスロット
10. AC 電源コード差し込み口
11. 背面赤外線リモートセンサー
12. USB ソケット
13. RS232 コントロールポート
14. RGB 信号出力ソケット
15. RGB（PC）/ コンポーネントビデオ（YPbPr/YCbCr）信号入力ソケット
16. DVI-I 信号入力ソケット
17. ビデオ入力ソケット
18. S ビデオ入力ソケット
19. オーディオソケット

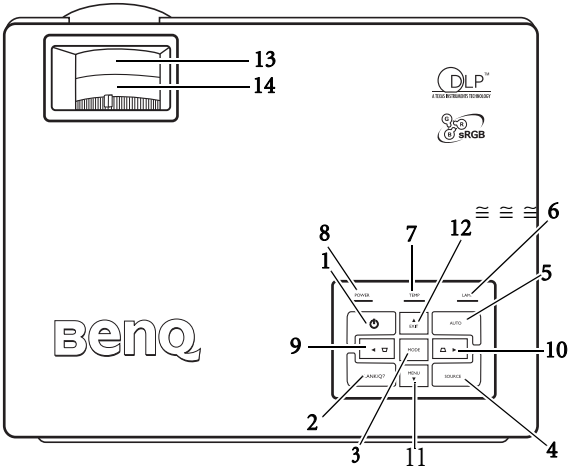
底面 / 側面



20. クイックリリース フット
21. ランプカバー
22. スピーカーグリル
23. 背面アジャスタ フット

制御装置および機能

プロジェクタ

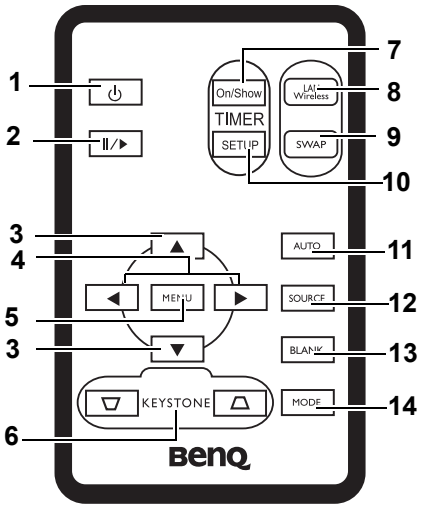


1. **電源（詳細については、26 ページの "起動" と 37 ページの "プロジェクタの終了" を参照してください）**
   プロジェクタのオン / オフを切り替えます。
2. **BLANK（ブランク）/Q?（詳細については、33 ページの "画像を隠す" と 37 ページの "FAQ 機能の使い方" を参照してください）**
   スクリーンのイメージを消すために使用します。コントロールパネルのキーをどれでも押すとイメージが戻ります。
   FAQ 機能を使用するには、3 秒間押したままにしてください。
3. **MODE（モード）（詳細については、32 ページの "画像モードの選択" を参照してください）**
   各入力で有効な、あらかじめ定義されている画像設定を順番に選択することができます。
   ワイヤレスモジュールがインストールされており、Wireless Connection（ワイヤレス接続）メニューが表示されているときにこのボタンを押すと、LAN、IEEE 802.11 a、または IEEE 802.11 b/g に切り替えることができます（ワイヤレスモジュールは BenQ 製品取り扱い店でお買い求めいただけます）。
4. **SOURCE（ソース）（詳細については、29 ページの "入力信号の切り替え" を参照してください）**
   入力信号を RGB、コンポーネントビデオ、S ビデオ、ビデオ、または DVI-I の順に選択します。
5. **AUTO（自動）（詳細については、30 ページの "イメージの自動調整" を参照してください）**
   選択した入力に最適なピクチャタイミングを自動的に決定します。

ワイヤレスモジュールがインストールされ、「Wireless Connection」メニューが表示されており、さらに IEEE 802.11 が選択されている場合は、このボタンを押すと安定したチャネルを検索することができます。（ワイヤレスモジュールは BenQ 製品取り扱い店でお買い求めいただけます。）

6. **LAMP インジケータ ライト（詳細については、51 ページの "インジケータ" を参照してください）**
   ランプの状態を表示します。ランプに問題が発生すると、点灯または点滅します。
7. **TEMP 温度警告ライト（詳細については、51 ページの "インジケータ" を参照してください）**
   プロジェクタの温度が異常に高くなると赤く点滅します。
8. **POWER 電源インジケータライト（詳細については、51 ページの "インジケータ" を参照してください）**
   プロジェクタ動作中に点灯または点滅します。
9. **◀ 左**
10. **右 ▶（詳細については、30 ページの "キーストーンの補正" を参照してください）**
    スクリーンメニューを表示していない場合、#9 および #10 は**キーストーン -/+** ホットキーとして機能します。
11. **▼MENU（メニュー）（詳細については、39 ページの "メニューの使用方法" を参照してください）**
    オン スクリーン ディスプレイのコントロール メニューをオンにします。
12. **▲EXIT（終了）**
    終了し、メニューの設定を保存します。
    オンスクリーンメニューが有効な場合、#9 から #12 のボタンを方向指示のボタンとして使用し、メニュー項目の選択や調整を行います。
13. **ピントリング（詳細については、30 ページの "画像サイズと明瞭さの微調整" を参照してください）**
    投写イメージの焦点を調整します。
14. **ズームリング（詳細については、30 ページの "画像サイズと明瞭さの微調整" を参照してください）**
    画像のサイズを調整します。時計回りに回転させると画像が拡大し、反時計回りに回転させると画像が縮小します。

リモートコントロール



1. **電源（詳細については、26 ページの " 起動 " と 37 ページの " プロジェクタの終了 " を参照してください。）**
   プロジェクタのオン / オフを切り替えます。
2. **||/▶一時停止**
   一時停止ボタンを押すと、イメージが一時停止します。スクリーンの右下隅に「||」アイコンが表示されます。一時停止を解除するには、**一時停止** ボタンをもう一度押します。
3. **▲ 上、▼ 下**
4. **◀ 左、右 ▶**
   オンスクリーンメニューが有効になっているときには、**▲ 上**, **▼ 下**, **◀ 左**、**右 ▶** ボタンを使ってメニューアイテムを選択し、調整を行ってください。
5. **MENU （メニュー）（詳細については、39 ページの " メニューの使用方法 " を参照してください。）**
   オンスクリーン メニューを表示または非表示にします。
6. **▽ KEYSTONE（キーストーン）△（詳細については、30 ページの " キーストーンの補正 " を参照してください。）**
   投写角度によって生じる画像の歪みを手動で修正します。
7. **TIMER On/Show（タイマーオン / 表示）（詳細については、36 ページの " プレゼンテーションタイマーの設定 " を参照してください。）**
   ユーザーが設定したタイマー設定に基づいて、スクリーンに表示するタイマーを有効、表示、あるいは非表示にします。

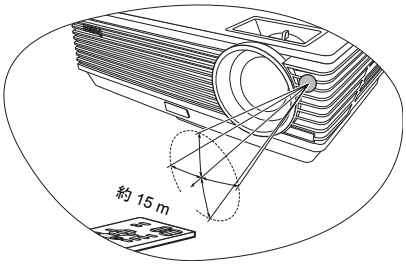
8. **LAN/Wireless （LAN/ ワイヤレス）（詳細については、18 ページの " ワイヤレス接続（オプション）" を参照してください。）**
   ワイヤレスモジュールがインストールされており、Wireless Connection (ワイヤレス接続) メニューが表示されている場合は、このボタンを押すと LAN 接続モードとワイヤレス接続モードが交互に切り替わります。（ワイヤレスモジュールは BenQ 製品取り扱い店でお買い求めいただけます。）
9. **SWAP （スワップ）（詳細については、18 ページの " ワイヤレス接続（オプション）" を参照してください。）**
   ワイヤレスモジュールがインストールされており、Wireless Connection (ワイヤレス接続) メニューが表示されているときにこのボタンを押すと、LAN、IEEE 802.11 a、または IEEE 802.11 b/g に切り替えることができます (ワイヤレスモジュールは BenQ 製品取り扱い店でお買い求めいただけます)。
10. **TIMER SETUP（タイマー設定）(詳細については、36 ページの " プレゼンテーションタイマーの設定 " を参照してください。）**
    プレゼンテーション タイマーの設定を直接行います。
11. **AUTO （自動）（詳細については、30 ページの " イメージの自動調整 " を参照してください。）**
    表示画像に最適な画像設定を自動的に決定します。
12. **SOURCE （ソース）（詳細については、29 ページの " 入力信号の切り替え " を参照してください。）**
    入力信号を RGB、コンポーネントビデオ、S ビデオ、ビデオ、または DVI-I の順に選択します。
13. **BLANK（ブランク）（詳細については、33 ページの " 画像を隠す " を参照してください。）**
    スクリーンのイメージを消すために使用します。リモコンのキーをどれでも押すと、イメージが戻ります。
14. **MODE （モード）（詳細については、32 ページの " 画像モードの選択 " を参照してください。）**
    各入力で有効な、あらかじめ定義されている画像設定を順番に選択することができます。

リモコンの有効範囲

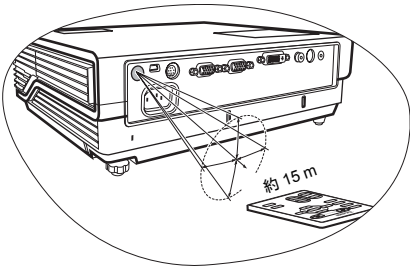
赤外線（IR）リモコンセンサは、プロジェクタの前面と背面にあります。リモコンを正しく機能させるには、プロジェクタの IR リモコンセンサに対して 30 度以内でリモコンを使用する必要があります。リモコンとセンサの間の距離は、6 メートル（20 フィート）を超えないようにしてください。

リモコンとプロジェクタの間に赤外線を遮断する障害物がないかどうかを確認します。

- **正面からの操作**



- **背面からの操作**

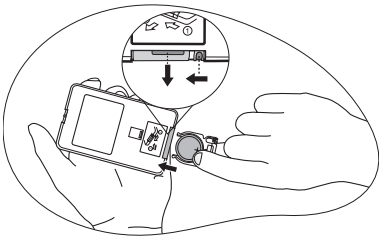


リモコンの電池の交換

1. 電池ケースを引き出します。

図に従ってください。ロックラッチを押したままバッテリーホルダを引き出します。

2. 新しい電池をケースに挿入します。プラス極が外側を向くように挿入してください。
3. ケースをリモコンに押し込みます。



- 高温多湿の場所に置かないでください。
- 電池は正しく取り扱わなければ、破損の原因となります。
- 使用済みの電池は、同じタイプの電池か、メーカーが推奨する同等タイプの電池と交換してください。
- また、使用済みの電池は電池メーカーの指示に従って処分してください。
- 電池は絶対に火に投げ込まないでください。爆発する恐れがあり大変危険です。
- 電池が消耗したり、長時間リモコンを使用しない場合は、液体が漏れないようにリモコンから電池を外してください。

3 設置

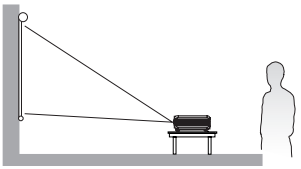
場所の選択

本機は次の 4 通りの設置状態で使うことができます。

1. 前面投射
2. 前方天井
3. リア投射
4. 後方天井

1. 前面投射

プロジェクタをスクリーンの正面に床面近くに設置します。これが最も一般的な設定です。

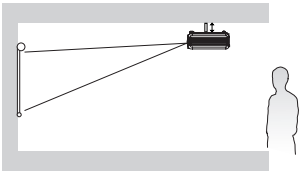


2. 天井前面投射

プロジェクタを上下逆さにスクリーン正面の天井に取り付けます。

この方法で設置する場合は、BenQ プロジェクタ天井取り付けキットをご購入ください。

プロジェクタをオンにした後で、**詳細 > ミラーメニュー**で を設定してください。

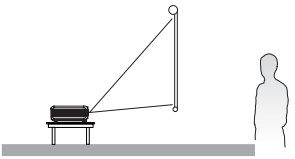


3. リア投射

プロジェクタをスクリーン背面、床面近くに設置します。

専用の背面スクリーン投写が必要です。

プロジェクタをオンにした後で、**詳細 > ミラーメニューで** を設定してください。

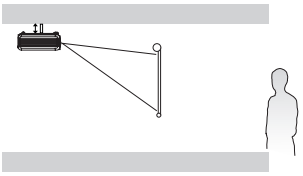


4. 天井リア投射

プロジェクタを上下逆さにスクリーン背面の天井に取り付けます。

専用の背面投写スクリーンと BenQ プロジェクタ天井取り付けキットが必要です。

プロジェクタをオンにした後で、**詳細 > ミラーメニューで** を設定してください。



部屋のレイアウトやお好みで、どの設定で設置するか決めてください。設置する際は、スクリーンのサイズや位置、電源コンセントがある場所、プロジェクタとその他の装置の距離や位置などを考慮してください。

プロジェクタを天井に取り付けるための安全のための注意

BenQ プロジェクタを安心してお使いいただくために、ここに記載される注意をよくお読みになり指示にしたがってください。

プロジェクタを天井に取り付ける場合は、BenQ プロジェクタ専用天井取り付けキットをお使いになり、しっかりと確実に設置してください。

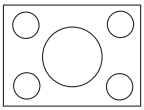
BenQ プロジェクタ以外の天井取り付けキットをお使いになると、ゲージやネジの長さが正確でないためプロジェクタが正しく固定されず落下してしまう恐れがあります。

BenQ プロジェクタ専用天井取り付けキットは、BenQ プロジェクタを購入された販売店でお買い求めいただけます。また別途ケンジントンロックをお求めになり、プロジェクタのケンジントンロックスロットと天井取り付けブラケットのベースをセキュリティケーブルでしっかりと繋いでおくことをお薦めします。このようにしておくと、万一天井取り付けブラケットが緩んでしまった場合にも、プロジェクタを補助的に支えることができます。

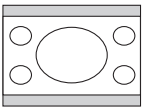
スクリーンサイズの調整

投写距離、ズーム設定、ビデオフォーマットにより投写画面サイズは変化します。

このプロジェクタの最高（ネイティブ）解像度は 1024 x 768 ピクセルであり、縦横の比率が 4 : 3 です。縦横比 16 : 9（ワイドスクリーン）の画像を完全に映し出すために、ワイドスクリーン画像をプロジェクタのネイティブ幅にリサイズすることができます。このようにすると、高さがプロジェクタのネイティブの高さの 75% に縮小されます。



縦横比 4 : 3 の表示エリアに投写した縦横比 4 : 3 の画像



縦横比 4 : 3 の表示エリアにリサイズして投写した縦横比 16 : 9 の画像

したがって、縦横比 16 : 9 の画像はこのプロジェクタで表示できる縦横比 4 : 3 のうち、高さの 25% を使用せずに表示することになります。リサイズした 16 : 9 画像を 4 : 3 表示エリアの縦方向の中央に表示したとしても、4 : 3 表示エリアの縦方向 12.5% に相当する使用されないこの部分は、黒いバーで表示されます。

プロジェクタの位置を決定する際、使用目的および入力信号の縦横比を考慮に入れる必要があります。すべての入力信号（16 : 9 信号を入力するコンポジットビデオ以外）は、4 : 3 の縦横比で表示されます（リサイズした 16 : 9 画像の表示エリアよりもさらに 33% 多い表示高が必要です）。

重要：入力信号を選択する必要がある場合は（**16** : **9** 信号を入力するコンポジットビデオ以外）、**16** : **9** をベースとした位置にプロジェクタを固定しないでください。

プロジェクタは必ず机の上などに水平に配置し、スクリーンの水平方向の中央に対して直角になるように設置してください。このように設置することによって、角度を付けて投写（または角度が付いた面に投写する場合）すると生じる画像の歪みを防止することができます。

新しいデジタルプロジェクタはまっすぐに画像を投写しません（例：古いオープンリール式のフィルムのプロジェクタ）。代わりに、デジタルプロジェクタはプロジェクタの水平面に対し、やや上向きに角度を付けて投写します。これは机の上に配置したとき、スクリーンの下端が机のレベルよりも上になるよう（また室内の全員がスクリーンをはっきりと見えるように）にするためです。

プロジェクタを天井に取り付ける場合は、プロジェクタがやや下向きに角度を付けて投写するように上下逆さまに取り付ける必要があります。

17 ページの図をご覧になるとお分かりいただけるように、このタイプの投写方法では投写画像の下端がプロジェクタの水平面から縦に傾いてしまいます。天井に取り付けた場合は、投写画像の上端がこのようになります。

プロジェクタをスクリーンから遠ざけると、投写イメージのサイズが拡大され、それに伴い縦のオフセットも広がります。

スクリーンとプロジェクタの距離を決定する際は、投写距離に直接比例する投写イメージのサイズと縦オフセットのサイズも考慮する必要があります。

プロジェクタを設置するための適度な距離については、縦横比 4 : 3 のスクリーンサイズの表をご参照ください。設置場所を決定するときには、スクリーン中央に対し直角の水平距離（投写距離）と、スクリーンの上下端からのプロジェクタの縦オフセットの高さ（オフセット）の 2 つのサイズを考慮してください。

使用するスクリーンサイズに対しプロジェクタの設置場所を決定する

1. スクリーンサイズを選択します。
2. 表を参考にして、左側の「4:3 スクリーンサイズ」という欄から使用したいスクリーンサイズに最も近いものを探してください。この値の列を右に見ていくと、「平均」という欄に相当するスクリーンからの平均距離が記載されています。これが投写距離になります。
3. 同じ列を右に見ていくと、縦オフセット値が記載されています。この値によって、スクリーンの端からの最終的な縦オフセット位置が決定されます。
4. プロジェクタはスクリーンの水平方向の中心に対して直角に、ステップ 2 で決定したスクリーンからの距離に、さらにステップ 3 で決定したオフセット値で設置するよう推奨します。

たとえば、120 インチのスクリーンを使用する場合は、平均の投写距離は 4,467 mm、縦オフセットは 183 mm となります。

プロジェクタを別の場所に移動させると（推奨される範囲内で）、スクリーンの中央に画像が表示されるようにプロジェクタを上下に傾ける必要があります。そうすると、画像に歪みが生じる場合があります。この場合は、キーストーン機能を使用して歪みを補正します。詳細は 30 ページの " キーストーンの補正 " を参照してください。

設置する距離に対し推奨するスクリーンサイズを決定する

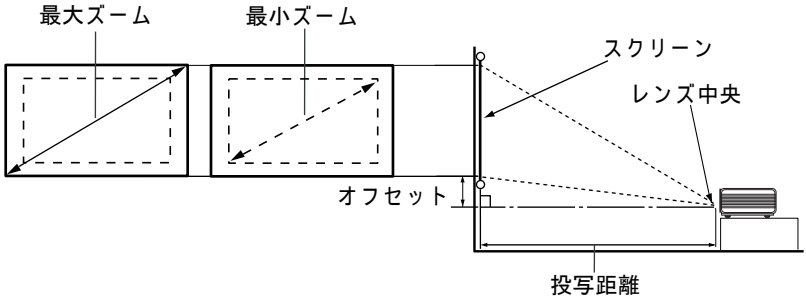
これは、プロジェクタを設置する部屋に合ったスクリーンサイズを求めるための方法です。

最大スクリーンサイズは、使用する部屋の実際のスペースが上限となります。

1. プロジェクタとスクリーンを設置したい場所までの距離を測ってください。これが投写距離になります。
2. 表を参考にして、「平均」という欄からスクリーンからの平均距離に最も近い値を探してください。測定した距離が最小距離と最大距離（平均距離値の両側に表示されています）の間にあることを確認してください。
3. この値と同じ列を左へ見ていくと、相当するスクリーンサイズを見つけることができます。これが投写距離からの投写画像サイズになります。
4. 同じ列を右に見ていくと、縦オフセット値が記載されています。この値によって、プロジェクタの水平面を基にした最終的なスクリーン設置場所が決定されます。

たとえば、測定した投写距離が 4.5m (4500mm) であった場合、「平均」欄で最も近い値は 4,593mm となります。同じ列を見ると、3000mm （3 m）が必要なスクリーンであることが分かります。大型サイズのスクリーンしか使用できない場合は、3 m スクリーンの両側にリストされているスクリーンサイズは 9' と 10' になっています。

これらのスクリーンサイズの最小および最大投写距離は、測定した 4..5m の投写距離を 9' スクリーンに合わせるためには短縮するか、10' スクリーンに合わせるためには延長する必要があることを示しています。このプロジェクタは同じ投写距離で、スクリーンサイズを変えて表示するように調整することもできます（ズームコントロールを使用します。）スクリーンサイズが変わると、縦オフセットの値も変わりますので注意してください。



4:3 スクリーン対角			スクリーンからの距離（mm）			縦オフセット（mm）
フィート	インチ	mm	最短距離（最大ズームにて）	平均	最長距離（最小ズームにて）	
4	48	1219	1778	1867	1956	73
		1500	2187	2297	2406	90
5	60	1524	2222	2333	2444	91
6	72	1829	2667	2800	2933	110
		2000	2916	3062	3208	120
7	84	2134	3111	3267	3422	128
8	96	2438	3556	3733	3911	146
		2500	3645	3828	4010	150
9	108	2743	4000	4200	4400	165
		3000	4347	4593	4812	180
10	120	3048	4444	4667	4889	183
		3500	5104	5359	5614	210
12	144	3658	5334	5601	5867	219
		4000	5833	6124	6416	240
15	180	4572	6667	7000	7333	274
		5000	7291	7655	8020	300
18	216	5486	7999	8399	8799	329
		6000	8749	9186	9624	360
25	300	7620	11111	11667	12222	457

光学部品の偏差のため、これらの数字には **3%** の公差があります。プロジェクタを一定場所に固定する予定であれば、設置を行う前に実際にプロジェクタを使って投写サイズと距離を測っておかれるようお薦めします。このように準備しておくことによって、プロジェクタを最適な位置に固定することができます。

4 接続

信号ソースをプロジェクタに接続する際には、次の点を確認してください。

1. 接続を行う前にすべての機器の電源をオフにします。
2. 各ソースに正しい信号ケーブルを使用します。
3. ケーブルがしっかり差し込まれていることを確認します。

☞ 下に示す接続図では、プロジェクタにケーブルは接続されていません（詳細は、**6** ページの **" パッケージ内容 "** を参照してください）。ケーブルはお近くの電気店でお求めください。

ワイヤレス接続（オプション）

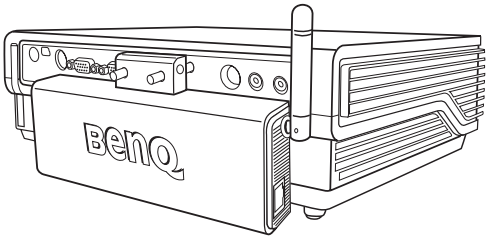
ワイヤレスモジュールは、ワイヤレス機能を備えた複数のコンピュータへのワイヤレス同時接続を可能にします。ワイヤレス機能を使用すると、プレゼンテーション中にわざわざ別のコンピュータにデータケーブルを繋ぎなおす必要がありません。ワイヤレス接続は、会議、カンファレンス、レクチャー、授業など、別々のノートブックを使って個別のプレゼンテーションを続けて発表するような場合に便利です。

☞ ワイヤレスモジュールがプロジェクタに接続されていなくても、プロジェクタをオンにするたびにスタートアップの段階でプロジェクタが入力信号を検出している間、ワイヤレス接続の状態がスクリーンに表示されます。

ワイヤレスモジュールはプロジェクタの背面にある DVI-I ソケットに接続します。

☞ ワイヤレスモジュールをプロジェクタに接続している間は、**DVI** ケーブル接続用の **DVI-I** ソケットを使用することはできません。
プロジェクタがワイヤレスデータ接続を行っていても、電源ケーブルを使って電源を供給する必要があります。

BenQ ワイヤレスモジュールは **BenQ** 製品取扱店にてご購入いただけます。他のケーブルを接続する前に、プロジェクタにワイヤレスモジュールを接続してください。ワイヤレスモジュールの接続および操作方法については、同梱されている取り扱い説明書をご参照ください。



ワイヤレスモジュールを接続した場合

ケーブル接続

コンピュータまたはモニタの接続

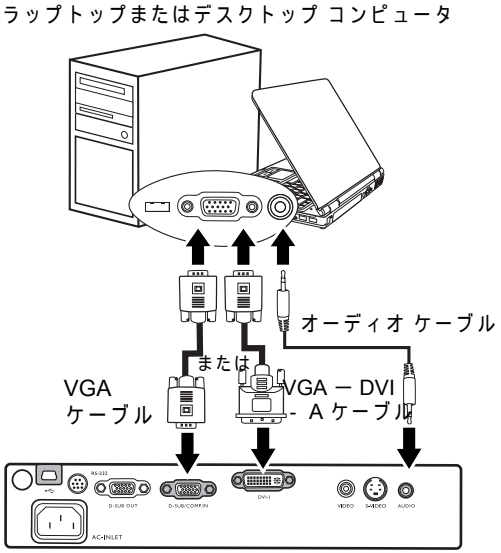
コンピュータの接続

このプロジェクタには PC と接続するための VGA および DVI 入力ソケットがついています。

プロジェクタと PC を接続するには（VGA ケーブルか VGA-DVI - A ケーブルを使用）:

• VGA ケーブルを使用した場合：	• VGA-DVI - A ケーブルを使用した場合：
1. 付属の VGA ケーブルをコンピュータの D-Sub 出力ソケットに接続します。 2. VGA ケーブルのもう片端をプロジェクタの D-Sub/Comp IN 信号入力ソケットに接続します。	1. VGA-DVI - A ケーブルの VGA 側をコンピュータの D-Sub 出力ソケットに接続します。 2. VGA-DVI - A ケーブルの DVI 側をプロジェクタの DVI-I 信号入力ソケットに接続します。
3. プロジェクタの（ミックスモノ）スピーカーを使用したい場合は、適切なオーディオケーブルをコンピュータのオーディオ出力ソケットとプロジェクタの Audio ソケットに接続してください。	

最終的には、下の図のような接続状態になります。



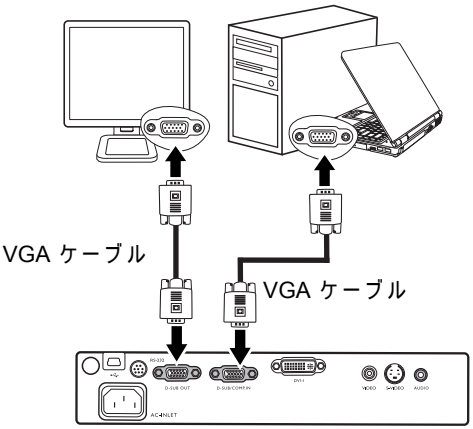
ラップトップコンピュータの多くは、プロジェクタに接続しても外付けビデオポートをオンにしません。通常は「**FN**」+「**F3**」や **CRT/LCD** の組み合わせによって、外付けディスプレイをオン / オフにすることができます。ラップトップ上で **CRT/LCD** と記された機能キーか、モニタの記号が表示された機能キーの位置を確認してください。「**FN**」とその機能キーを同時に押します。ラップトップのキーの組み合わせについては、ラップトップの説明書をお読みください。

モニタの接続

ご自分のプレゼンテーションをスクリーンだけでなく、モニタにも表示して近くで画面を確認したい場合、下の図に示す通りプロジェクタの RGB 信号出力ソケットと外部モニタを VGA ケーブルで接続できます。

1. プロジェクタとコンピュータを 19 ページの " コンピュータの接続 " の手順にしたがって接続してください。
2. 適切な VGA ケーブル（本製品に同梱されているもの）を使ってビデオモニタの D-Sub 入力ソケットに挿入します。
3. もう片端をプロジェクタの D-Sub OUT ソケットに挿入します。

最終的には、下の図のような接続状態になります。



D-Sub 出力は、プロジェクタに正しく **D-Sub** 入力信号が送られなければ機能しません。

ビデオ機器との接続

このセクションでは、ビデオケーブルでプロジェクタとビデオソース装置を接続する手順を説明します。ビデオケーブル接続はビデオプレゼンテーションを行う場合に適しています。

このプロジェクタはワイヤレス機能を使用したデータ (グラフィック) PC 接続にも対応しています。ワイヤレス接続によりビデオプレゼンテーションを行うことはお薦めしません。詳細は、18 ページの " ワイヤレス接続（オプション）" を参照してください。

本プロジェクタは次の出力ソケットのいずれかを備えたビデオ機器と接続することができます。

- DVI
- コンポーネントビデオ
- S ビデオ
- ビデオ（コンポジット）

上記のいずれかの方法でプロジェクタとビデオソース装置を接続してください。ただし、方法によってビデオ品質が異なります。接続方法は、プロジェクタとビデオソース装置の両方に搭載されている端末に合ったものを選択してください。

最高のビデオ品質

最も適切なビデオ接続方式は DVI です。ソースデバイスに DVI ソケットが装備されている場合は、使用できる DVI コネクタの種類によって、デジタル品質または高品質なアナログビデオ品質をお楽しみいただくことができます。

プロジェクタを DVI ソースに接続する方法と、その他の説明については、22 ページの " コンポーネントビデオソース装置の接続 " を参照してください。

DVI ソースが使用できない場合は、その次に品質の高いビデオ信号はコンポーネントビデオ (「コンポジットビデオ」ではありません) になります。デジタル TV チューナーや DVD プレーヤーはコンポーネントビデオを出力しますので、S ビデオや（コンポジット）ビデオには使用できるならばこの方法で接続してください。

プロジェクタとコンポーネントビデオ装置の接続方法については、22 ページの " コンポーネントビデオソース装置の接続 " を参照してください。

良好なビデオ品質

S ビデオは標準のコンポジットビデオよりも品質が良いアナログビデオを再現します。ビデオソース装置にコンポジットビデオと S ビデオの両出力端末が付いている場合は、S ビデオを選択してください。

プロジェクタと S ビデオ装置の接続方法については、24 ページの "S ビデオソース装置の接続 " を参照してください。

標準ビデオ品質

コンポジットビデオはアナログビデオであり、見るだけなら十分です。ただしプロジェクタから投写される結果は最適値以下であり、ここで記載した方法の中では最も品質が低い方法です。

プロジェクタとコンポジットビデオ装置の接続方法については、25 ページの " コンポジットビデオソース装置の接続 " を参照してください。

オーディオ接続

このプロジェクタにはビジネス用途に限り使用できる、データプレゼンテーションに備わった基本的な音声機能を再生できるようにモノラルスピーカーが内蔵されています。このスピーカーはホームシアターやホームシネマなどに求められるステレオオーディオを再生するために設計されたものではありません。ステレオオーディオ入力は、プロジェクタのスピーカーを介して一般的なモノラルオーディオ出力にミキシングされます。

別にサウンドシステムを使用できる場合は、ビデオソース装置のオーディオ出力とサウンドシステムを接続するとよいでしょう。次のセクションで示すオーディオ接続図は参照としてのみ記載しています。別のサウンドシステムを使用できる場合、またはオーディオが必要でない場合は、プロジェクタにオーディオを接続する必要はありません。

コンポーネントビデオソース装置の接続

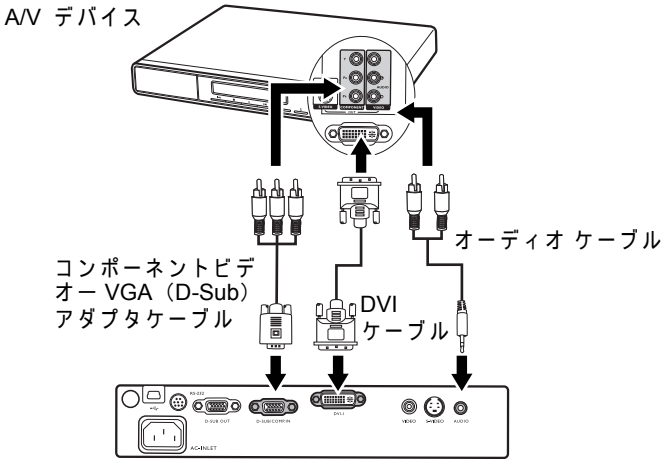
ビデオソース装置に未使用のコンポーネントビデオ出力ソケットがあるかどうかを調べてください。

- ある場合は、手続きを続けてください。
- ない場合は、別の方法で装置を接続してください。

コンポーネントビデオー VGA (D-Sub) アダプタケーブルを使ってプロジェクタをコンポーネントビデオ ソース装置に接続するには：

• コンポーネントビデオー VGA（D-Sub）アダプタケーブルを使用した場合：	• DVI ケーブルを使用した場合：
1. （オプションアクセサリの）コンポーネントビデオー VGA（D-Sub）アダプタケーブルの 3 個の RCA タイプコネクタが付いた方をビデオソース装置のコンポーネントビデオ出力ソケットに差し込んでください。プラグの色とソケットの色を合わせてください（緑は緑と、青は青と、赤は赤と）。 2. コンポーネントビデオー VGA (D-Sub) アダプタケーブルのもう片端（D-Sub タイプコネクタが付いた方）をプロジェクタの D-SUB/COMP IN ソケットに差し込みます。	1. DVI ケーブルをビデオソース装置の DVI 出力ソケットに接続します。 2. ケーブルのもう片端をプロジェクタの DVI-I 入力ソケットに差し込んでください。
3. プロジェクタの（ミックスモノ）スピーカーを使用したい場合は、適切なオーディオケーブルをコンピュータのオーディオ出力ソケットとプロジェクタの Audio ソケットに接続してください。	

最終的には、下の図のような接続状態になります。



- このプロジェクタではステレオオーディオ入力が接続されていても、ミックス モノオーディオしか再生できません。**21** ページの **"** オーディオ接続 **"** を参照してください。
- ネイティブ **16** : **9** ピクチャを表示できるビデオ出力は、コンポーネントビデオだけです。

プロジェクタを高精度 TV（HDTV）チューナーに接続する場合は、次の規格がサポートされています。

- 480i
- 576i
- 720p（50/60 Hz）
- 480p
- 576p
- 1080i（50/60 Hz）

正しいビデオソースが選択されているにもかかわらず、電源をオンにしても選択したビデオイメージが表示されない場合は、ビデオソースの電源がオンになっていて正しく動作していることを確認してください。また信号ケーブルが正しく接続されていることも確認してください。

S ビデオソース装置の接続

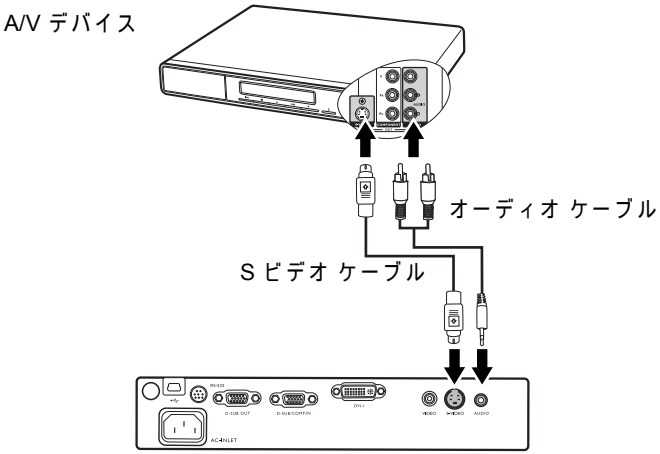
ビデオソース装置に未使用の S ビデオ出力ソケットがあるかどうかを調べてください。

- ある場合は、手続きを続けてください。
- ない場合は、別の方法で装置を接続してください。

プロジェクタを S ビデオ装置に接続するには：

1. S ビデオケーブル（オプションアクセサリ）をビデオソース装置の S ビデオ出力ソケットに差し込んでください。
2. S ビデオケーブルのもう片端をプロジェクタの S ビデオソケットに差し込んでください。
3. プロジェクタの（ミックスモノ）スピーカーを使用したい場合は、適切なオーディオケーブルをコンピュータのオーディオ出力ソケットとプロジェクタの Audio ソケットに接続してください。

最終的には、下の図のような接続状態になります。



- このプロジェクタではステレオオーディオ入力が接続されていても、ミックス モノオーディオしか再生できません。詳細は、21 ページの " オーディオ接続 " を参照してください。
- 正しいビデオソースが選択されているにもかかわらず、電源をオンにしても選択したビデオメージが表示されない場合は、ビデオソースの電源がオンになっていて正しく動作していることを確認してください。また信号ケーブルが正しく接続されていることも確認してください。
- コンポーネントビデオ接続方式によりプロジェクタとこの **S** ビデオソース装置をすでに接続してある場合は、**S** ビデオ接続方式でこの装置を接続すると不要に **2** つめの接続が生じ、画質が悪くなるため、この装置を接続する必要はありません。詳細は、21 ページの " ビデオ機器との接続 " を参照してください。

コンポジットビデオソース装置の接続

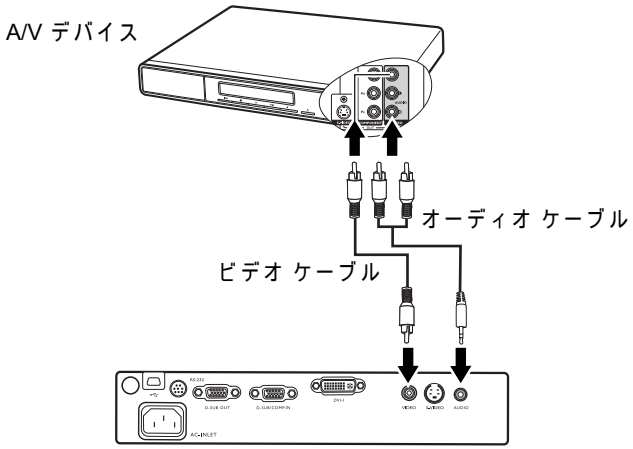
ビデオソース装置に未使用のコンポジットビデオ出力ソケットがあるかどうかを調べてください。

- ある場合は、手続きを続けてください。
- ない場合は、別の方法で装置を接続してください。

プロジェクタをコンポジットビデオソース装置に接続するには：

1. （オプションアクセサリの）ビデオケーブルをビデオソース装置のビデオ出力ソケットに差し込んでください。
2. ビデオケーブルのもう片端をプロジェクタのビデオソケットに差し込んでください。
3. プロジェクタの（ミックスモノ）スピーカーを使用したい場合は、適切なオーディオケーブルをコンピュータのオーディオ出力ソケットとプロジェクタの Audio ソケットに接続してください。

最終的には、下の図のような接続状態になります。

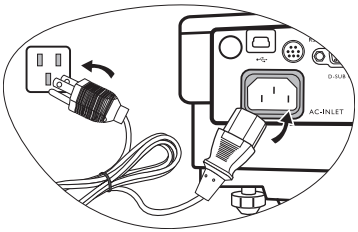


- このプロジェクタではステレオオーディオ入力が接続されていても、ミックス モノオーディオしか再生できません。詳細は、21 ページの " オーディオ接続 " を参照してください。
- 正しいビデオソースが選択されているにもかかわらず、電源をオンにしても選択したビデオイメージが表示されない場合は、ビデオソースの電源がオンになっていて正しく動作していることを確認してください。また信号ケーブルが正しく接続されていることも確認してください。
- コンポーネントビデオ入力と S ビデオ入力を使用できない場合に限り、コンポジットビデオ接続方式で接続してください。詳細は、21 ページの " ビデオ機器との接続 " を参照してください。

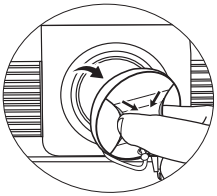
5 操作

起動

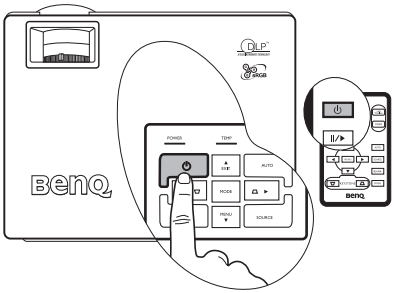
1. 電源コードをプロジェクタとコンセントに差し込みます。コンセントのスイッチをオンにします（該当する場合）。電源を入れると、POWER（**電源インジケータ**）がオレンジ色になります。



2. レンズ キャップを取り外します。
キャップを付けたままにしておくと、プロジェクタのランプから発生する熱によりキャップが変形してしまいます。



3. プロジェクタまたはリモコンの **電源**ボタンを 2 秒間押し続けてプロジェクタを起動します。ランプが点灯すると、"Power On Tone（**パワーオントーン**）"が鳴ります。**電源インジケータ ライト**が緑色に点滅し、電源がオンになると、緑色のまま点灯します。
起動処理には約 30 秒かかります。
起動処理の後半で、スタートアップ ロゴが表示されます。
必要であれば、ピントリングを使って画像の鮮明さを調整してください。



- 電源オン / オフ トーンを有効にしたくない場合は、オンスクリーン ディスプレイメニューでこの機能を無効にすることができます。詳細は、**43** ページの "ミュート （オフ）" を参照してください。
- プロジェクタが前回の動作を終えた後まだ余熱を帯びている場合は、ランプをスタートアップする前に約 **90** 秒間冷却ファンが作動します。

4. パスワードの入力を求められた場合は、矢印ボタンを使って 4 桁のパスワードを入力してください。27 ページの "パスワード機能の使い方" を参照してください。
5. 接続されているすべての機器の電源をオンにします。
プロジェクタは入力信号の検索を開始します。スキャンされている入力ソースがスクリーン中央に表示されます。入力ソース信号が検出されるまで検出メッセージが表示され続けます。
プロジェクタまたはリモコンの SOURCE（**ソース**）を押すと、表示する入力信号を選択することができます。29 ページの "入力信号の切り替え" を参照してください。

- プロジェクタが入力ソースの解像度が **XGA** ではないことを検出すると、「解像度に関する注意」が表示されます。
- 入力信号の周波数 / 解像度がプロジェクタの動作範囲を超えた場合、「対応範囲外」というメッセージが消画スクリーンに表示されます。

パスワード機能の使い方

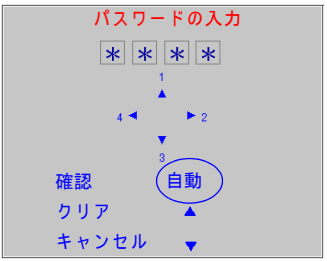
セキュリティのため、および許可されていないユーザーがプロジェクタを勝手に使用できないように、このプロジェクタにはパスワードを設定することができます。パスワードはオンスクリーンメニューで設定します。オンスクリーンメニューの操作方法については、39 ページの " メニューの使用方法 " を参照してください。

警告：パスワード機能を有効にしたにも関わらず、パスワードを忘れてしまうと面倒なことになります。（必要であれば）本書を印刷し、設定したパスワードを本書に書き留めておき、安全な場所に保管しておいてください。

パスワードの設定

一度パスワードを設定して有効にすると、プロジェクタを起動するたびに正しいパスワードを入力しなければプロジェクタを使用することはできなくなります。

1. オンスクリーン ディスプレイメニューを開き、 **設定 > パスワード** を選択します。**左** ◀ または **右** ▶ を押して **オン** を選択してください。
2. 初めてこの機能を有効にすると、スクリーン上に警告が表示されます。
3. 右図に示す通り、4 個の矢印ボタン ((**上** ▲、**右** ▶、**下** ▼、**左** ◀) はそれぞれ 4 つの数字 (1, 2, 3, 4) に相当します。矢印ボタンを押して 4 桁のパスワードを入力してください。
4. パスワードを完全に入力したら、AUTO（**自動**）を押して確認してください。



重要：入力した数字は画面上にはアスタリスク (*) で表示されます。本書の下の欄に設定したパスワードを書き留めておいてください。

パスワード：＿＿＿＿

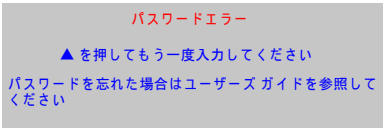
本書は安全な場所に保管しておいてください。

5. 確認のために、同じパスワードをもう一度入力してください。
6. 次のいずれかのステップにしたがってください。
   i. AUTO（**自動**）を押して続行します。「パスワードの設定が完了しました」というメッセージが表示されたらセットアップが完了したことになります。
   ii. **上** ▲ を押してクリアし、もう一度 4 桁のパスワードを入力してください。
   iii. パスワードの設定を中止し、オンスクリーンメニューに戻るには、**下** ▼ ボタンを押します。

パスワード機能を無効にするには、オンスクリーン ディスプレイメニューで **設定 > パスワード**を選択します。**左** ◀ または **右** ▶ を押してオフ を選択してください。次に **下** ▼ を押して確認します。キャンセルする場合は、**上** ▲ を押してください。

パスワード機能を無効にしても、再びパスワード機能を有効にするときに古いパスワードを入力するよう要求されますので、古いパスワードは忘れないように記録し保管しておいてください。

パスワードを忘れた場合



プロジェクタを起動すると毎回 4 桁のパスワードを入力するよう要求されます。パスワードを間違えると、エラーメッセージが表示されます。**上** ▲ を押してもう一度やり直してください。パスワードを忘れてしまい、またパスワードを記録しておかなかった場合は、パスワードの呼び戻し手続きを行ってください。

パスワードの呼び戻しを行うには

右 ▶ ボタンを 3 秒間押します。スクリーン上に 4 組のコード化された番号が表示されます。番号を書き留めて、プロジェクタをオフにしてください。番号をデコードするには、お近くの BenQ サービスセンターにお問い合わせください。お客様がこのプロジェクタを使用できる正当なユーザーであることを確認するために、購入を証明する文書の提示を求められる場合があります。

パスワードの変更

1. オンスクリーン メニューを開き、 **設定** > **パスワードの変更**を選択します。
2. **左** ◀ または**右** ▶ を押します。
3. 古いパスワードを入力してください。
   i. パスワードが正しければ、新しいパスワードを入力することができます。
   ii. 入力したパスワードが正しくなければ、「パスワードエラー」メッセージが表示されます。もう一度入力するには**上** ▲ を押します。キャンセルするには**下** ▼ を押します。
4. 新しいパスワードを入力します。

   重要：入力した数字は画面上にはアスタリスク (*) で表示されます。本書の下の欄に設定したパスワードを書き留めておいてください。

   パスワード：＿＿＿＿

   本書は安全な場所に保管しておいてください。

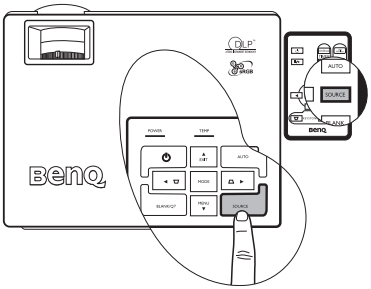
5. 次のいずれかのステップにしたがってください。
   i. **AUTO（自動）**を押して確認します。
   ii. もう一度入力し直すには、**上** ▲ を押してください。
   iii. パスワードの設定を中止し、オンスクリーンメニューに戻るには、**下** ▼ ボタンを押します。
6. 新しいパスワードを再度入力して新しいパスワードを確認してください。
7. 次のいずれかのステップにしたがってください。
   i. **AUTO（自動）**を押すと設定が完了します。
   ii. もう一度入力し直すには、**上** ▲ を押してください。
   iii. パスワードの設定を中止し、オンスクリーンメニューに戻るには、**下** ▼ ボタンを押します。

入力信号の切り替え

プロジェクタは同時に複数の装置に接続することができます。ただし一度に表示できる装置は 1 台です。

プロジェクタのコントロールパネルかリモコンの **SOURCE（ソース）**を押すと、右下隅に現在の信号と解像度が表示されます。再び **SOURCE（ソース）**を押すと、ソース選択バーが表示されます。希望する信号が選択されるまで手動で **SOURCE (ソース)** を押すか、プロジェクタに有効な信号を自動検出させることができます。

信号が検出されたら、選択したソース情報が画面の右下隅に 3 秒間表示されます。プロジェクタに複数の装置が接続されている場合は、再びこのボタンを押して別の信号を検出することができます。



プロジェクタに信号を自動検出させるには、**詳細**メニューで**ソーススキャン**機能が有効になっていることを確認してください。44 ページの " ソーススキャン（オン）" を参照してください。

自動検出を 2 回行っても入力信号が検出されない場合は、「**信号なし**」というメッセージが表示されます。

入力信号を変えると、そのたびに投写画像の輝度も変わります。通常ほとんどが静止画を使ったデータ（グラフィック）**PC** プレゼンテーションは、ほとんどが動画（ムービー）のビデオよりも明るくなります。

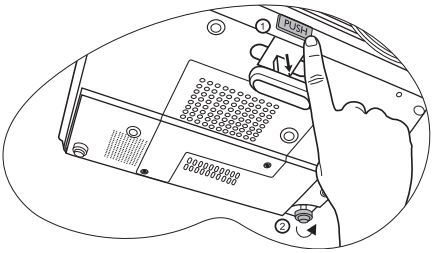
入力タイプによって、アプリケーションモードで有効なオプションが変わります。詳細は、**32** ページの " 画像モードの選択 " を参照してください。

投写イメージの調整

投写角度の調整

プロジェクタには、クイック リリース アジャスタ フットが 1 つ、背面アジャスタ フットが 1 つ備え付けられています。これらのアジャスタを使って、イメージの高さと投写角度を調整します。プロジェクタを調整するには、次の手順にしたがってください。

1. プロジェクタを持ち上げ、アジャスタボタンを押してアジャスタを解放します。アジャスタが所定の位置に下りて固定されます。



ランプが点灯しているときには絶対にレンズを覗かないでください。ランプからは強い光が発されており、目を傷つける場合があります。

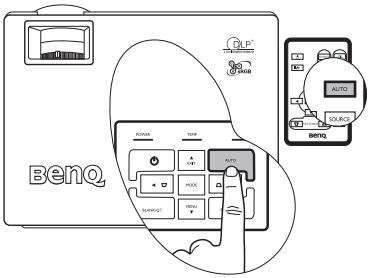
2. 背面アジャスタ フットを回して、水平角度を微調整します。

フットを縮めるには、クイックリリース ボタンを押しながらプロジェクタを持ち上げて、ゆっくりとプロジェクタを下ろします。背面アジャスタフットを逆方向に回します。

スクリーンとプロジェクタが垂直になっていなければ、投影画像は縦に歪みます。これを補正するには、プロジェクタのコントロール パネルまたはリモコンの画像メニューでキーストーンの値を調整します。**30** ページの " キーストーンの補正 " を参照してください。

イメージの自動調整

場合によっては、画質を最適化する必要が生じることもあります。これを実行するには、プロジェクタかリモコンの AUTO（自動）ボタンを押します。組み込みのインテリジェント自動調整機能により周波数およびクロックの値が再調整され、3 秒以内に最適な画質が得られます。

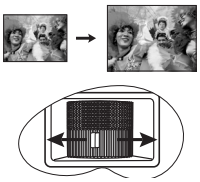


下図のように、現在のソース情報がスクリーンの右下隅に 3 秒間表示されます。

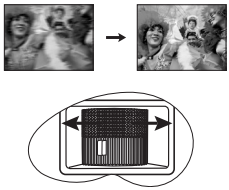
AUTO（自動）が機能している間、スクリーンは消画の状態になります。

画像サイズと明瞭さの微調整

1. 投写されたイメージのサイズを調整するには、ズームリングを使用します。



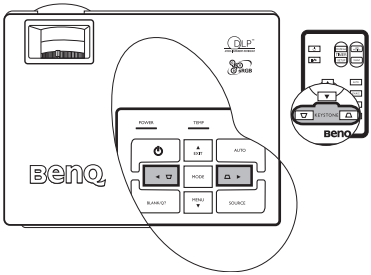
2. 次にピントリングを回して焦点を合わせます。



キーストーンの補正

キーストーンとは、投写イメージの上部または下部が大きく広がってしまう状態のことです。プロジェクタがスクリーンに対して垂直でない。

これを補正するには、プロジェクタの高さの調整とは別に、次のいずれかの手順に従い、手動で補正する必要があります。



1. プロジェクタのコントロールパネルの **左** ◀ **/ 右** ▶ を押し、[キーストーン] というステータスバーを表示します。イメージの上部のキーストーンを補正する場合は、**左** ◀ を押します。イメージの下部のキーストーンを補正する場合は、**右** ▶ を押します。

2. リモコンの ▽ / △ を押して、[キーストーン] というラベルの付いたステータスバーを表示してから、イメージの上部のキーストーンを補正する場合は、▽ を押し、イメージの下部のキーストーンを補正する場合は、△ を押します。

3. プロジェクタの ▼ **メニュー**またはリモコンの MENU (**メニュー**) キーを押します。 **高画質画像** > **キーストーン**を選択し、プロジェクタの**左** ◀ **/ 右** ▶ またはリモコンの**左** ◀ **/ 右** ▶ を押して値を調整してください。

以下に例を示します。

Keystone 0

1. プロジェクタの左 ◀ を押すか、または
2. リモコンの ▽ を押すか、または
3. 画像 **-->** キーストーンメニューが表示されている場合は、プロジェクタの左 ◀ を押すか、リモコンの ◀ を押します。

Keystone -6

Keystone 0

1. プロジェクタの右 ▶ を押すか、または
2. リモコンの △ を押すか、または
3. 画像 **-->** キーストーンメニューが表示されている場合は、プロジェクタの右 ▶ を押すか、リモコンの ▶ を押します。**>**

Keystone +6

縦横比の選択

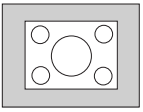
「縦横比」とは、イメージの幅と高さの比率のことです。ほとんどのアナログ TV とコンピュータの画面の縦横比率は 4:3 です。これはこのプロジェクタのデフォルト値に設定されています。デジタル TV や DVD の場合は 16:9 です。

デジタル信号処理能力が進化するにつれ、このプロジェクタのようなデジタルディスプレイ装置はイメージ出力をイメージ入力ソースとは異なるアスペクトにまで拡張できるようになりました。

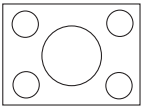
投写画像の比率は、 **高画質画像 > 縦横比**を選択すると変更できます（ソースの縦横比がどちらであっても）。ビデオ信号のフォーマットとディスプレイの条件に合わせて適切な縦横比を選択してください。3 種類の縦横比があります。

☞ 下の図では黒い部分が無効になったエリアで、白い部分が有効なエリアです。

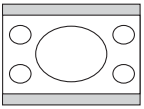
1. **ネイティブ**：画像はピクセルの変換を行わず、元の解像度のまま投写されます。低解像度の入力信号では、投写画像はフルスクリーンサイズにリサイズした場合よりも小さいサイズで表示されます。ズーム倍率を調整するか、プロジェクタをスクリーンに近づけると画像サイズを拡大することができます。このような調整を行った後は、プロジェクタのフォーカスを調整し直す必要があるかもしれません。



2. **4:3**: スクリーンの中央が 4:3 の縦横比になるようにイメージを調整します。これは縦横比を変更せずにすむため、コンピュータモニタ、標準精度の TV、縦横比 4:3 の DVD ムービーなどの 4:3 画像に適しています。



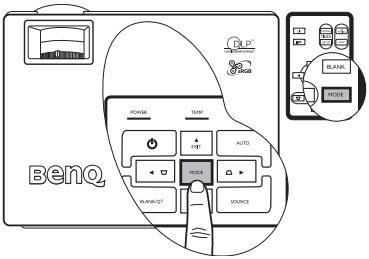
3. **16:9**: スクリーンの中央が 16:9 の縦横比になるようにイメージを調整します。この設定は、縦横比を変更する必要がないため高精度 TV など、すでに縦横比が 16:9 になっている画像に適しています。



☞ 縦横比 **16:9** は正しい **16:9** 信号が入力されているときに、コンポーネントビデオ入力を介してしか表示することができません。詳細は、**22** ページの " コンポーネントビデオソース装置の接続 " と **15** ページの " スクリーンサイズの調整 " を参照してください。

画像モードの選択

このプロジェクタは操作環境や入力ソースの画像タイプによって自由に選択できるように、いくつかのアプリケーションモードが設定されています。用途に応じた操作モードを選択するには、任意のモードが選択されるまで **MODE**（モード）を繰り返し押してください。信号タイプごとに使用できる画像モードは次の通りです。



PC 信号入力

1. **Dynamic モード（デフォルト）**：イメージの輝度を最大限明るくします。このモードは、輝度を最高に明るくする必要がある環境に適しています（プロジェクタを明るい部屋で使用する場合など）。
2. **プレゼンテーションモード**：プレゼンテーションに向いています。このモードでは PC の色に合わせて輝度が強調されます。
3. **sRGB モード**：RGB の純度を最高に上げて、輝度設定に関係なく実物のようなリアルな画像を再現します。このモードは sRGB 対応の正しく調整されたカメラで撮影したフォトを見たり、PC グラフィックや AutoCAD などの描画アプリケーションを見るのに適しています。
4. **Cinema モード**：このモードはやや暗めの場所で、PC 入力を介してデジタルカメラや DV からカラフルなムービーやビデオクリップを再生するのに適しています。
5. **Blackboard モード**：教育用に設けられたモードです。通常のスクリーンではなく、黒板などの暗い背景に画像を投写することができます。明るい部屋で、暗い背景を使って投写する場合に適しています。

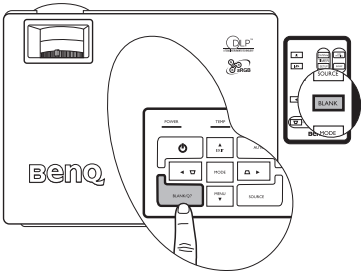
YPbPr/S ビデオ / ビデオ信号入力

1. **Dynamic モード**：このモードは普通のリビングルームの照明でゲームボックススペースのビデオゲームを楽しむのに適しています。
2. **Standard モード（デフォルト）**：デジタルカメラや DVs からカラフルなムービーやビデオクリップを表示する場合に適しています。
3. **Cinema モード**：このモードは暗くしたホームシネマルームやラウンジなどで、色が暗いムービーや DVD ムービーを楽しむのに適しています。
4. **Blackboard モード**：教育用に設けられたモードです。通常のスクリーンではなく、黒板などの暗い背景に画像を投写することができます。明るい部屋で、暗い背景を使って投写する場合に適しています。

画像を隠す

BLANK (ブランク) を使用するとスクリーンのイメージが消えるため、聴衆の関心をすべて講演者に向けることができます。リモコンのキーをどれでも押すと、イメージが戻ります。

イメージが非表示になると、スクリーンの右下隅に、「**BLANK （ブランク）**」と表示されます。ビデオ / S ビデオ入力を使用している場合は、この機能を使用してもサウンドは流れたままになります。



詳細 --> ブランク時間を設定すると、一定時間消画スクリーン状態で何もしなかった場合に、自動的に画像が戻るように設定できます。

BLANK (ブランク) を 1 回押すと、プロジェクタは自動的に省電力モードに入ります。

投写中に投写レンズを他の物体で覆わないでください。その物体が過熱し、火災の原因となり危険です。

オリジナルのスタートアップ画面、MyScreen を作成する

スタートアップ画面はプリセットの BenQ ロゴ、黒、または青いスクリーンが用意されていますが、これら以外にもコンピュータからプロジェクタに画像をダウンロードすることによって、ユーザー自身のスタートアップ画面を作成することができます。

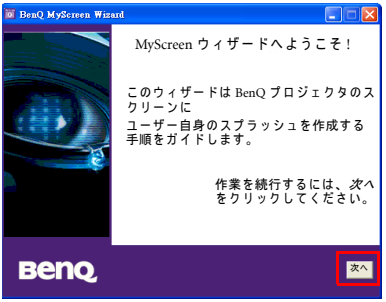
1. RS232 ケーブル（オプション）を使って、プロジェクタをデスクトップコンピュータに接続します。詳細は、19 ページの " コンピュータの接続 " を参照してください。
2. ダウンロードを開始する前に、プロジェクタがスタンバイモードになっていることを確認してください。スタンバイモードに入るには、次の手順に従ってください。
   i. AC 電源を接続すると、**POWER**、**TEMP** および **LAMP** LEDs がオレンジ色に点滅し、同時に消えます。
   ii. 次に **POWER** LED がオレンジ色に点灯します。
3. プロジェクタに同梱されている CD をコンピュータの CD ドライブに挿入してください。**MyScreen ウィザードをインストール**をクリックし、画面の指示にしたがってください。

- ソフトウェアをインストールする権限があることを確認してください。
- **MyScreen** ユーティリティは **Windows 98/ME** または **Windows 2000** とは互換性がない場合があります。**MyScreen** ユーティリティは **Windows XP** システム上で起動されるようお薦めします。

4. MyScreen ユーティリティを実行するには：

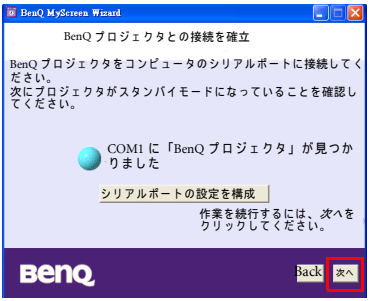
i. MyScreen ウィザードのインストールが完了すると、

ショートカット アイコンがデスクトップに作成されます。このアイコンをクリックするか、[プログラムファイル] から選択すると、MyScreen ユーティリティを実行することができます。



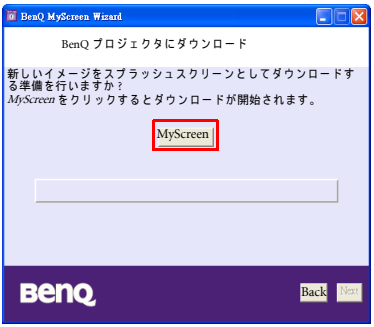
ii. **次へ**をクリックしてください。

iii. **次へ**をクリックしてください。

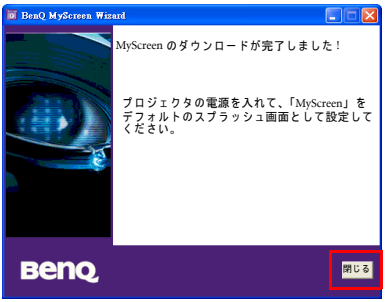


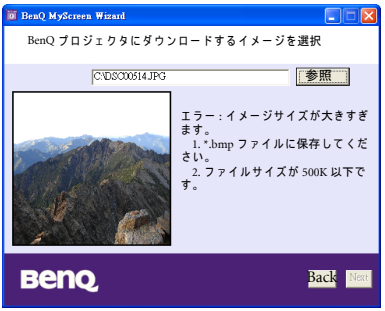
iv. **参照**をクリックして任意のイメージを選択し、**次へ**をクリックします。

v. **MyScreen** をクリックするとダウンロードが開始されます。



vi. 下のウィンドウが表示されたら、**閉じる**をクリックしてください。





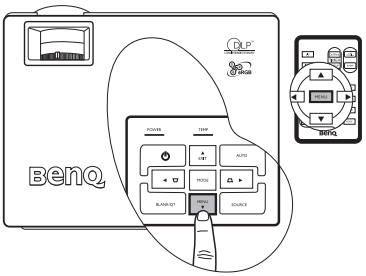
- イメージフォーマットには制限があります。***.bmp/*.jpg/*.png/*.gif** ファイルはダウンロードできますが、すべてのイメージファイルを完全にダウンロードできるという保証はありません。ダウンロードできるかどうかは、ファイルサイズとカラー形式によって異なります。
- 右図に示す通り、イメージサイズが大きすぎる場合は、ダウンロード開始と同時に警告メッセージが表示されます。［戻る］をクリックして別のイメージを選択し、もう一度やり直してください。
- イメージをダウンロードしている間は、**RS232** ケーブルを外したり、**MyScreen** ウィザードウィンドウを閉じたりしないでください。誤ってこれらのことを行うと、プロジェクタと **MyScreen** ユーティリティがシャットダウンしてしまいます。その場合は、一度電源コードを抜いて、もう一度接続してダウンロードをやり直してください。

パネル キーロックを有効化する

設定を勝手に変更されたり、誤ってボタンを押したりすることがないように、パネル キーロックを有効にすると、POWER（電源）以外のすべてのパネルキー機能を無効にすることができます。

設定 > パネル キーロックを選択し、プロジェクタかリモコンの**左** ◀ / **右** ▶ を押して**オン** を選択してください。確認のメッセージが表示されます。次に**下** ▼ を押して確認します。キャンセルする場合は、**上** ▲ を押してください。

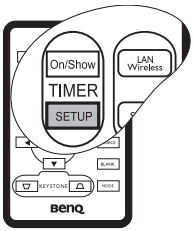
パネル キーロックを解除するには、プロジェクタの MENU（**メニュー**）▼ を 5 秒間押すか、リモコンを使って **設定 > パネル キーロック**を選択し、**左** ◀ / **右** ▶ を押して **オフ** を選択してください。確認のメッセージが表示されます。次に下 ▼ を押して確認します。キャンセルする場合は、上 ▲ を押してください。



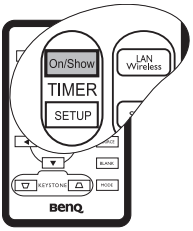
- パネル キーロックが有効になっている間は、リモコンのボタンは使用中になっています。
- パネル キーロックを無効にせずに **POWER**（電源）を押してプロジェクタをオフにすると、次回プロジェクタをオンにしたときにもまだロックされた状態になります。

プレゼンテーションタイマーの設定

プレゼンテーションタイマーは、発表者が上手く時間を管理できるように、スクリーン上にプレゼンテーションの残り時間を表示する機能です。この機能を使用するには、次の手順に従ってください。



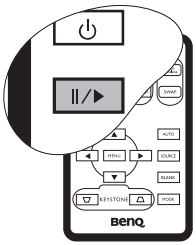
1. **設定** > **プレゼンテーションタイマー**を選択するか、リモコンの **TIMER SETUP（タイマー設定）**を押して直接タイマー設定に入ってください。
2. **左** ◀ **/ 右** ▶ を押して**オン** を選択してください。確認のメッセージが表示されます。次に**下** ▼ を押して確認します。キャンセルする場合は、**上** ▲ を押してください。
3. ▼ **下** を押して次のオプションに進み、**左** ◀ **/ 右** ▶ を押してタイマーの間隔を決定してください。
4. ▼ **下**を押し、次に**左** ◀ **/ 右** ▶ を押してタイマーをスクリーンに表示するかどうかを決定します。
5. **はい**を選択した場合は、6 **下** を押して次のオプションに進み、**左** 3**/ 右** 4 を押してタイマーを左上、右上、左下、右下のどこに表示するかを選択します。
6. ▼ **下**を押し、次に**左** ◀ **/ 右** ▶ を押して残り時間のカウント方法を選択します。
7. ▼ **下**を押し、次に**左** ◀ **/ 右** ▶ を押してアラーム通知を作動させるかどうかを選択します。**はい**を選択すると、残り時間 30 秒でビーッという音が 2 回鳴り、プレゼンテーション時間が終了すると 3 回鳴ります。



リモコンの TIMER On/Show（タイマーオン / 表示）は多機能キーです。プレゼンテーション タイマーがオフになっているときに、このボタンを 1 回押すとタイマーが有効になり、2 回押すとタイマーがスクリーン上に表示されます。タイマーがすでにオンになっている場合は、このボタンを押すとタイマーがスクリーン上に表示されます。

- スクリーン上のタイマーの時間は、ユーザーが設定したタイマーと同じです。たとえば、タイマーを常に表示するように設定してある場合は、このボタンを **1** 回押すとタイマーが有効になり、スクリーン上に表示され続けます。タイマーを表示しないように設定してある場合は、タイマーは **5** 秒間だけスクリーン上に表示されます。その後タイマーは消えます。タイマーが消えた後も、タイマーはカウントを続けていますので注意してください。
- タイマーがすでにオンになっている場合は、新しくタイマーを設定するたびにタイマーを有効にする必要があります。

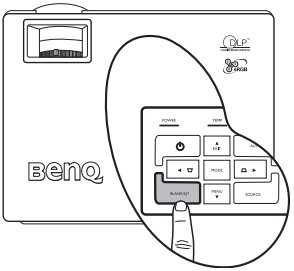
画像の静止



リモコンの**一時停止**を押すと画像が静止します。スクリーンの右下隅に ▮▮ アイコンが表示されます。一時停止を解除するには、リモコンの**一時停止**ボタンを押すか、プロジェクタのコントロールパネルの **SOURCE（ソース）**ボタンを押してください。SOURCE（ソース）ボタンを押すと入力ソースも変わりますので注意してください。

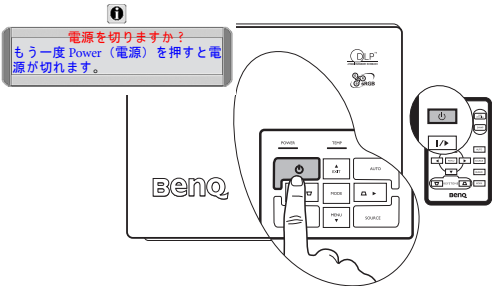
スクリーン上でイメージが静止しても、ビデオやその他の装置で映像は流れ続けています。接続した装置に有効なオーディオが含まれている場合は、画像が静止しても音声は聞くことができます。

FAQ 機能の使い方



プロジェクタの **BLANK（ブランク）/Q?** を 3 秒間押すか、 **詳細** > **FAQ** を選択します。画質、インストール、特殊機能の操作、補修などについて、生じ得る問題への対処法が表示されます。**MENU（メニュー）▼/EXIT（終了）▲** を押して、これら 4 つの主なカテゴリーの中から 1 つを選択してください。より特殊な質問については、**左◀ / 右▶** を押してください。次に **◀ 左 / ▶ 右**を押すと対処法が表示されます。終了するには、**EXIT（終了）▲** を押します。

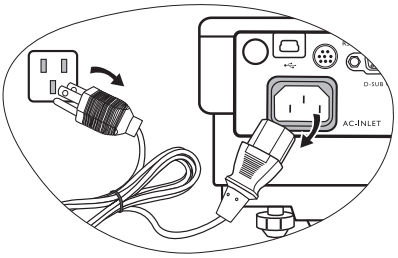
プロジェクタの終了



1. **電源** を押すと、警告メッセージが表示されます。もう一度 **電源**を押すと、プロジェクタの電源がオフになります。
2. **POWER(電源) インジケータライト**がオレンジ色に点滅してランプが消灯した後、プロジェクタを冷却するためにファンが約 30 秒間動作を続けます。

⚠ ランプを保護するため、冷却プロセスの間はプロジェクタはいかなるコマンドにも反応しません。

3. 冷却処理が完了すると、**電源オフトーン**が鳴ります。電源コードをコンセントから抜きます。



⚠
- プロジェクタ終了手順が完了する前、または **30** 秒間の冷却プロセスの間は、電源コードを抜かないでください。
- プロジェクタを正しく終了しなければ、プロジェクタを再起動しようとするとランプを保護するため、数分間ファンが動作して冷却します。ファンが停止したらもう一度プロジェクタの電源ボタンを押して起動すると、電源インジケータがオレンジ色に点灯します。

メニューの操作

メニュー システム

オンスクリーン メニューは、選択した信号のタイプにより異なります。

	受信信号のタイプにより使用可能な機能		
サブメニュー	PC	ビデオ / S ビデオ	コンポーネントビデオ
 画像	画像モード 色温度 輝度 コントラスト	画像モード 色温度 輝度 コントラスト 色 色合い * シャープネス	
 高画質画像	キーストーン 自動サイズ調整 縦横比 水平位置 垂直位置 位相 水平サイズ	キーストーン 自動サイズ調整 縦横比	
 設定	ミュート 音量 OSD 時間 ブランク時間 クイッククーリング パネル キーロック パスワード パスワードの変更 リセット		
 詳細	ミラー ソーススキャン 言語 起動画面 高地対応モード 自動電源オフ 省電力モード プレゼンテーションタイマー Q 機能		
 情報	ソース 解像度 画像モード ランプ時間（補正済み）	ソース システム 画像モード ランプ時間（補正済み）	ソース 解像度 画像モード ランプ時間（補正済み）

* ビデオまたは S ビデオ信号が接続されているときには、この機能は NTSC システムが選択されているときにしか使用することができません。

メニューの使用方法

プロジェクタは、On-Screen Display (OSD) メニューを備えており、各種の調整や設定が行えます。

メニュー言語は 17ヶ国語用意されています（詳細については、44 ページの " 詳細メニュー " を参照してください）。

次の例では、キーストーンの調整を説明しています。

1. プロジェクタの **MENU（メニュー）** ▼ または、リモコンの **MENU（メニュー）** を押して、オンスクリーンメニューをオンにします。

2. プロジェクタの **左 ◀ / 右 ▶** または、リモコンの **左 ◀ / 右 ▶** を使用して、 **高画質画像**メニューを選択します。
3. プロジェクタの **EXIT（終了）** ▲ または **MENU（メニュー）** ▼ を押すか、またはリモコンの ▼/▲ を押して、**キーストーン**を選択します。

4. プロジェクタの **左 ◀ / 右 ▶** または、リモコンの **左 ◀ / 右 ▶** を使用して、キーストーンの値を調整します。

5. プロジェクタの **EXIT（終了）** ▲ を押すか、リモコンの **MENU（メニュー）** を 2 回 * 押して終了し、設定を保存します。

*1 回押すとサブメニューに戻り、2 回押すとオンスクリーンメニューが終了します。

画像メニュー

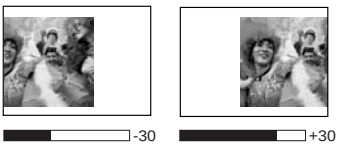
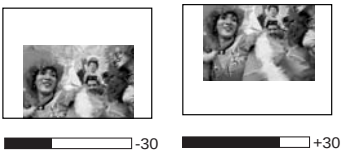
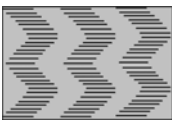
項目によっては、特定の入力ソースを使用している場合にしか調整できないものもあります。調整できない項目はスクリーンには表示されません。

機能（デフォルト設定 / 値）	説明
画像モード （**PC**：ダイナミック； **YPbPr / S** ビデオ / ビデオ：標準 **)**	あらかじめ定義したモードを利用すると、ご使用のプログラムタイプに最適なプロジェクタのイメージを設定することができます。 リモコンの **MODE**（モード）ボタンを使ってあらかじめ定義したモードを選択することもできます。**32** ページの **" 画像モードの選択 "** を参照してください。
色温度（選択したアプリケーションモードにより変わります）	4 種類の色温度 * 設定が使用できます。 1. **T1:** 最高の色温度のとき、T1 は他の設定よりも画像をより青白く再現します。 2. **T2:** 画像を青みがかった白で表示します。 3. **T3:** 白の色合いを通常に保ちます。 4. **T4:** 画像を赤みがかった白で表示します。 *** 色温度について：** 用途に応じて「白」とみなされる色合いが多数存在します。白色を表すためによく使用される方法の 1 つに「色温度」があります。色温度の低い白色は赤みがかった白で表示されます。色温度の高い白色は青みがかって表示されます。
輝度（選択した入力ソースによって変わります）	イメージの輝度を調整します。値を高くするほどイメージの輝度が増加します。設定値が小さいほどイメージは暗くなります。このコントロールを調整すると、イメージの黒い領域が黒く表示されるため、暗い領域の詳細が見えるようになります。
コントラスト （選択した入力ソースによって変わります）	イメージの明るさと暗さの差を調整します。値を高くするほどコントラストが増加します。選択した入力と表示環境に合わせて輝度を調整した後、これを使って白のピークレベルを設定することができます。

色（選択した入力ソースによって変わります）	イメージの色強度を増減します。
色合い（**50**）	イメージの色調を調整します。値を高くするほど赤みがかったイメージになります。値を低くするほど緑がかったイメージになります。 ☞ ビデオまたは **S** ビデオ信号が接続されているときには、この機能は **NTSC** システムが選択されているときにしか使用することができません。
シャープネス（**15**）	イメージがシャープまたはソフトになるように調整します。

高画質画像メニュー

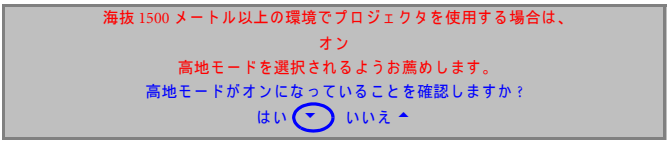
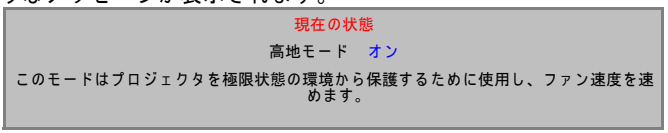
☞ 項目によっては、特定の入力ソースを使用している場合にしか調整できないものもあります。調整できない項目はスクリーンには表示されません。

機能（デフォルト設定 / 値）	説明
キーストーン（**0**）	イメージのキーストーンを補正します。詳細については、30 ページの " キーストーンの補正 " を参照してください。
自動サイズ調整（オン）	入力信号のピクセル解像度をプロジェクタの最高解像度に自動的にリサイズします。 **オン**：入力信号のピクセル解像度がプロジェクタの最高解像度（1024 x 768）に変換されます。低解像度の入力信号では、投写する前にピクセル間のギャップが自動的に補間されます。これにより画像の鮮明さが失われる場合があります。 **オフ**：画像はピクセルの変換を行わず、元の解像度のまま投写されます。低解像度の入力信号では、投写画像はフルスクリーンサイズにリサイズした場合よりも小さいサイズで表示されます。ズーム倍率を調整するか、プロジェクタをスクリーンに近づけると画像サイズを拡大することができます。このような調整を行った後は、プロジェクタのフォーカスを調整し直す必要があるかもしれません。
縦横比（ネイティブ）	入力信号ソースによって、画像の縦横比を設定するオプションは 3 つあります。 詳細は、31 ページの " 縦横比の選択 " を参照してください。
水平位置（**0**）	投写画像の水平位置を調整します。 
垂直位置（**0**）	投写画像の垂直位置を調整します。 
位相（選択した入力ソースによって変わります）	この機能を使用すると、クロック位相を調整して、イメージの歪みを減少させることができます。 
水平サイズ（**0**）	イメージの幅を調整します。

設定メニュー

機能（デフォルト設定 / 値）	説明
ミュート（オフ）	プロジェクタのオーディオと**電源オン / オフ トーン**を切り替えます。 **電源オン / オフ トーン**を無効にするには、 **設定** > **ミュート** を選択し、**左** / **右** を押してください。次に**下** を押して**電源オン / オフ トーン**を選択し、**左** / **右** を押して**オフ**を選択します。
音量（**5**）	音量を調整します。
OSD 時間 (20)	ボタンを押してからのオンスクリーンメニューの表示時間を設定します。5 ～ 100 秒の範囲で設定できます。
ブランク時間（**20**）	ブランク機能が有効になっているとき、画像をブランクにしておく時間を選択します。ここで設定した時間が経過すると、画像は元に戻ります。
クイック冷却（オン）	クイッククーリング機能を有効 / 無効にします。**オン**を選択するとこの機能が有効になり、プロジェクタの冷却時間が通常の 90 秒よりも短くなり 30 秒程度で冷却が終了します。
パネル キー ロック（オフ）	POWER（**電源**）以外のプロジェクタのすべてのパネルキー機能と、リモコンのボタンを無効または有効にします。
パスワード（オフ）	これは選択可能な機能です。**オン**を選択すると、パスワードを知っているユーザーのみプロジェクタを操作できるようにします。初めてこの機能を有効にするときに、パスワードを設定する必要があります。詳細は、27 ページの " パスワード機能の使い方 " を参照してください。パスワードを設定し、この機能を選択すると、プロジェクタはパスワードで保護された状態になります。正しいパスワードを知らないユーザーはプロジェクタを操作することができません。 ☞ 警告：パスワード機能を有効にしたにも関わらず、パスワードを忘れてしまうと面倒なことになります。 （必要であれば）本書を印刷し、設定したパスワードを本書に書き留めておき、安全な場所に保管しておいてください。 パスワード入力はプロジェクタやリモコンのボタンを使って行ってください。 ☞ 入力した数字は画面上にはアスタリスク **(*)** で表示されます。
パスワードの変更	新しいパスワードに変更する前に、現在のパスワードを入力するよう要求されます。詳細は、27 ページの " パスワード機能の使い方 " を参照してください。
リセット（いいえ）	すべての設定を工場出荷時の値に戻します。 ☞ 次の設定は現在の設定値のまま維持されます。ミラー、言語、パスワード、高地モード、位相、水平位置。

詳細メニュー

機能（デフォルト設定 / 値）	説明
ミラー （床面前面）	プロジェクタは、天井またはスクリーンの背後に設置したり、1 枚あるいは複数のミラーを使用して設置することができます。プロジェクタを天井に設置する場合は、販売店に連絡して、天井取り付け用ブラケット（別売りアクセサリ）をお求めください。詳細については、13 ページの " 場所の選択 " を参照してください。
ソーススキャン （オン）	プロジェクタで自動的に入力信号を検索するかどうかを設定します。ソーススキャンが**オン**の場合、プロジェクタは信号を取得するまで入力信号をスキャンします。この機能が有効になっていない場合は、最後に使用した入力信号が選択されます。デフォルト値は 'RGB' です。
言語 （**English**）	OSD コントロール メニューの言語を設定します。 プロジェクタかリモコンの **左** / **右** を使って任意の言語を選択してください。
スプラッシュスクリーン （**BenQ** ロゴ）	プロジェクタ起動時に表示されるロゴ画面を、ユーザーが選択することができます。選択肢には以下の 4 つがあります。BenQ ロゴ、黒いスクリーン、青いスクリーン、MyScreen
高地モード （オフ）	高地や温度が高い場所で使用するときのモードです。海抜 3000 フィート以上、気温 40 ℃以上の環境、またはプロジェクタをシャットダウンせずに連続して長時間 （>10 時間以上）使用する場合は、このモードを選択されるようお薦めします。 高地モードを有効にするには、プロジェクタかリモコンで**左** / **右** を押して**オン**を選択してください。確認のメッセージが表示されます。 を押してください。  次回プロジェクタの電源を入れると、スタートアップ中に下のようなメッセージが表示されます。  高地対応モードを選択した場合は、システムの性能を維持するために冷却ファンが回転速度を速めるために操作ノイズが高くなる場合があります。 上記の場合を除き、その他の極限環境でプロジェクタを使用すると、プロジェクタが自動的にシャットダウンする場合があります。これはプロジェクタを過熱から保護するために設置された機能です。このような場合は、高地対応モードに切り替えてみてください。これは、このプロジェクタが極限状態でも操作可能であるということを保証するものではありません。

自動電源オフ	指定した時間を経過しても入力信号が検出されないときに、自動的にプロジェクタの電源をオフにします。プロジェクタかリモコンの**左** ◀ **/右** ▶ を押して、プロジェクタの電源が切れるまでの時間を設定してください。
省電力モード（オフ）	システムのノイズを減らすためにはこのモードを使用します。消費電力が 20% 節減されます。このモードを有効にすると出力されるライトが低減され、その結果投射画像が暗くなります。 ☞ プロジェクタを常に省電力モードで使用すると、ランプタイマーの自動シャットダウン機能が延長されます。ランプの使用時間を計算する方法については、**47** ページの " ランプの使用時間の計算 " を参照してください。
プレゼンテーションタイマー	プレゼンテーションを一定時間内で終わらせられるように、発表者に残り時間を知らせます。詳細については、36 ページの " プレゼンテーションタイマーの設定 " を参照してください。
FAQ	発生し得る問題に対する対処表を表示します。

情報メニュー

このメニューでは、プロジェクタの現在の操作状態を表示します。

☞ 項目によっては、特定の入力ソースを使用している場合にしか調整できないものもあります。調整できない項目はスクリーンには表示されません。

機能	説明
ソース	現在の信号ソースを表示します。
解像度	入力信号のネイティブ解像度を表示します。
画像モード	**画像**メニューで選択したモードを表示します。
ランプ時間（補正済み）	内蔵タイマーが計算した同等ランプ時間を表示します。
システム	ビデオ入力システムの形式が NTSC 、SECAM 、PAL のいずれかを表示します。

6 メンテナンス

プロジェクタのお手入れ

ご使用のプロジェクタはほとんどメンテナンスの必要がありません。唯一気を付けていただくことは、定期的にレンズを拭いていただくことだけです。

ランプを除き、プロジェクタの部品は一切取り外さないでください。ランプ以外の交換が必要な場合は、販売店にご相談ください。

レンズのクリーニング

表面の汚れやほこりが付いていたら、レンズをクリーニングします。

- 圧縮空気スプレーを使用してほこりを取り除きます。
- 汚れやしみが付いた場合は、レンズ クリーニング ペーパーまたはレンズ クリーナで湿らせた柔らかい布でレンズの表面を軽く拭きます。

☞ レンズは絶対に研磨剤でこすらないでください。

プロジェクタケースのクリーニング

ケースのお手入れを行う前に、37 ページの "プロジェクタの終了" に記載されている正しい手順でプロジェクタの電源を切り、電源コードを抜いてください。

- ほこりや汚れを取り除くには、柔らかい、けば立ちのない布で拭きます。
- 落ちにくい汚れやしみを取り除くには、水で薄めた中性洗剤で布を湿らせて、ケースを拭きます。

☞ ワックス、アルコール、ベンジン、シンナー、その他の化学洗剤は使用しないでください。こうした薬剤を使用すると、ケースを傷める場合があります。

プロジェクタの保管

長期間プロジェクタを保管する必要がある場合、次の手順に従ってください。

- 保管場所の温度と湿度が、プロジェクタの推奨範囲内であることを確認します。詳細は、54 ページの "仕様" を参照されるか、販売店にお尋ねください。
- アジャスタフットを格納します。
- リモコンから電池を取り外します。
- プロジェクタを元の梱包または同等の梱包にしまいます。

プロジェクタの移動

プロジェクタを搬送するときは、元の梱包または同等の梱包で行うことを推奨します。ご自分で運ぶ場合は、最初に本製品が梱包されていた材料か、添付の携帯用ソフトケースを使用してください。

ランプについて

ランプの使用時間の計算

プロジェクタが作動している間、プロジェクタに内蔵されたタイマーがランプの使用時間（時間単位）を自動的に計算します。ランプ時間の計算方法は次の通りです。

合計（同等）ランプ時間

=（省電力モードでの使用時間）+4/3（標準モードでの使用時間）

省電力モードについての詳細は、**45** ページの "省電力モード（オフ）" を参照してください。

省電力モードでのランプ時間は標準モードの 2/3 として計算されます。つまりプロジェクタを省電力モードで使用すると、ランプ寿命を 1/3 ほど延長することができます。

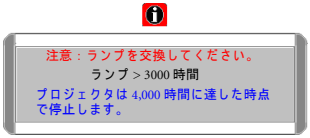
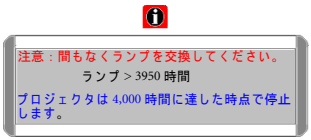
警告メッセージ

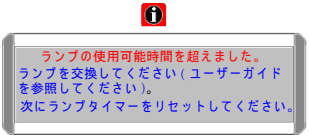
LAMP（ランプ）インジケータが赤に点灯した場合、またはランプの交換時期であることを示すメッセージが表示された場合は、新しいランプを取り付けるか、お買い上げの販売店にご相談ください。古いランプを使用すると、プロジェクタの誤動作の原因となり、ランプが破裂することもあります。

プロジェクタの警告メッセージについての詳細は、51 ページの " インジケータ " を参照してください。

ランプの温度が異常に高くなると、**LAMP**（ランプ）インジケータライトおよび温度警告ライトが点灯します。この場合は、電源をオフにして **45** 分間ほど放置し、プロジェクタを常温に戻してください。このようにしても電源をオンにしたときに「**LAMP**」（ランプ）インジケータまたは「**TEMP**」（温度）インジケータが点灯する場合は、販売店にご相談ください。

次のランプ警告が表示されたら、ランプを交換してください。

メッセージ	状態
	ランプ使用時間が 3,000 時間に達しました。動作を最適化するために、新しいランプを取り付けてください。
	ランプ使用時間が 3,950 時間に達しました。新しいランプに交換しておくと、途中でランプが寿命で切れる不都合を避けられます。

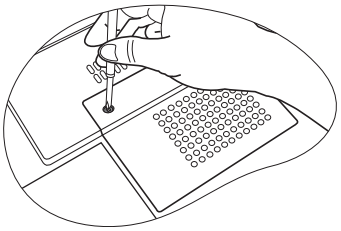
	ランプ使用時間が 4,000 時間に達しました。メッセージはスクリーン中央で約 30 秒間点滅し、同時に LAMP (ランプ) インジケータ が 40 秒間赤く点灯します。 この時点でランプを交換されるよう強くお薦めします。ランプは消費アイテムです。使用時間が長くなると、ランプは徐々に明るさを失います。これは正常な現象です。ランプが非常に暗くなったら、いつでもランプを交換してください。ランプの使用時間が 4000 時間を超えたらランプを交換してください。
	この警告メッセージが表示されると、プロジェクタは 40 秒以内にシャットダウンします。プロジェクタを正常に動作させるには、ランプを交換してください。

ランプの交換

⚠
- 感電を防ぐため、ランプを交換する前には必ずプロジェクタの電源をオフにし、電源コードを抜いてください。
- 重度のやけどを負う危険を防ぐため、ランプを交換する前に、最低でも **45** 分間はプロジェクタを冷却してください。
- 割れて鋭くなったランプのガラス片を取り除く場合は、指をけがしたり、内部部品を破損したりしないように、十分注意してください。
- 指のけがや、レンズに触れることによる画質の劣化を避けるため、ランプを取り外すときに空のランプ ケースには触れないでください。
- このランプの中には水銀が入っています。ランプの処分は、地元の有害廃棄物規制条例にしたがって、正しい方法で行ってください。

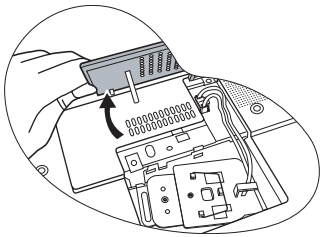
1. 電源をオフにして、プロジェクタをコンセントから抜きます。ランプが高温になっている場合は、やけどを防ぐためにランプを約 45 分間放置して常温に戻してください。

2. プロジェクタを上下に裏返します。ランプカバーのネジを緩めます。

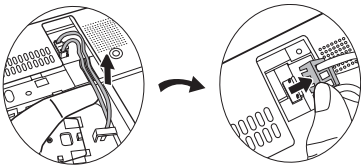


3. プロジェクタからランプカバーを外します。

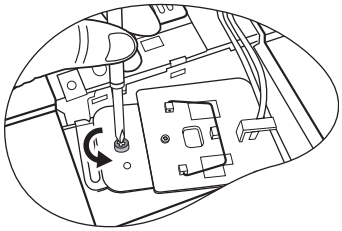
⚠ ランプカバーを外したまま、電源を入れないでください。



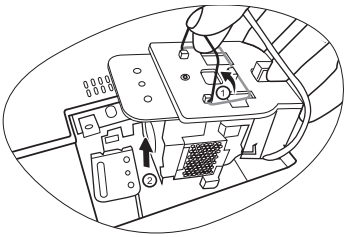
4. スロットからランプコードを外します。
5. ランプコネクタをプロジェクタ側に押しながら上に持ち上げると、ランプが外れます。



6. ランプを固定しているネジを緩めます。

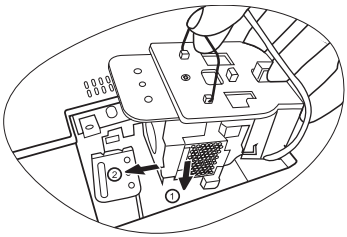


7. ハンドルを上に持ち上げてください。ハンドルを使ってゆっくりとランプをプロジェクタから引き出します。



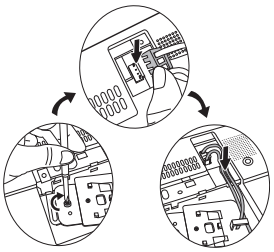
- 急激に引っ張るとランプが割れ、ガラスの破片がプロジェクタ内に散乱します。
- 取り出したランプは、水のかかる場所、子供の手が届く場所、可燃物の付近には置かないでください。
- ランプを取り外した後は、プロジェクタ内に手を入れないでください。内部の光学部品に手を触れると、投写イメージの色が不均一になり歪む場合があります。

8. 図に示す通り、まず新しいランプを下げて、ランプの 2 個の穴とプロジェクタの突起の位置を合わせます。

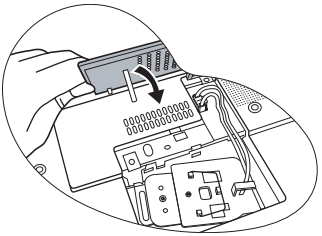


9. ランプを固定しているネジを締めます。

- ネジの締め方がゆるいと接触が悪くなり、故障の原因になる場合があります。
- ネジを締め過ぎないでください。

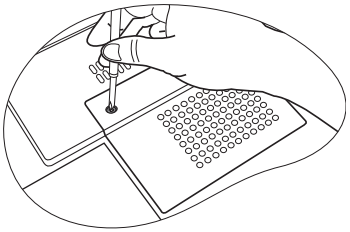


10. ランプコネクタをプロジェクタに接続します。
11. ランプコードをスロットに戻します。
12. プロジェクタにランプカバーを戻します。



13. ランプカバーを固定しているネジを締めます。

- ネジの締め方がゆるいと接触が悪くなり、故障の原因になる場合があります。
- ネジを締め過ぎないでください。



14. プロジェクタを再起動してください。

ランプカバーを外したまま、電源を入れないでください。

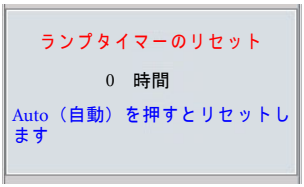
15. ランプカウンタのリセット

ランプを交換していない場合はリセットしないでください。ランプが破損する恐れがあります。

i. プロジェクタの **EXIT（終了）** ▲ ボタンを 5 秒間押し、ランプの合計動作時間を表示します。

ii. プロジェクタまたはリモコンの **AUTO（自動）** を押し、ランプ時間を「0」にリセットします。

iii. OSD が消えるまで、5 秒ほどお待ちください。



温度情報

温度警告ライトが点灯している場合は、以下の問題が発生していることを示しています。

1. 内部温度が異常に高くなっています。
2. ファンが動作していません。

プロジェクタの電源をオフにし、認定サービス担当者にお問い合わせください。詳細は、51 ページの " インジケータ " を参照してください。

インジケータ

意味

- **Blank (ブランク)-** : ライト消灯
- : ライト点滅
- : ライト点灯
- **O** : オレンジ色
- **R** : 赤色
- **G** : 緑色

Light (ライト)			状態と説明
電源	温度	ランプ	
電源の状況			
O	O	O	プロジェクタがたった今コンセントに接続されました。
O	-	-	スタンバイ モードです。
G	-	-	電源を入れています。
G	-	-	通常動作状態です。
O	-	-	1. 通常の冷却プロセスを経過せずに異常終了したため、プロジェクタの冷却に 90 秒必要です。**または** 2. 電源を切った後、プロジェクタは 90 秒間の冷却時間が必要です。
O	-	-	プロジェクタが自動的に終了しました。プロジェクタを再起動しようとしても、プロジェクタは再度終了します。販売店にお問い合わせください。
ランプの状況			
O	-	R	プロジェクタが自動的に終了しました。プロジェクタを再起動しようとしても、プロジェクタは再度終了します。販売店にお問い合わせください。
-	-	R	1. プロジェクタの冷却に 90 秒必要です。**または** 2. 販売店にお問い合わせください。

Light (ライト)			状態と説明
電源	温度	ランプ	
温度の状況			
-	R	-	
-	R	R	
-	R	G	
-	R	O	
R	R	R	
R	R	G	
R	R	O	
G	R	R	プロジェクタが自動的に終了しました。プロジェクタを再起動しようとしても、プロジェクタは再度終了します。販売店にお問い合わせください。
G	R	G	
G	R	O	
O	R	R	
O	R	G	
O	R	O	
-	G	R	
-	G	G	

7 トラブルシューティング

⑦ プロジェクタの電源がオンにならない

原因	対応
電源コードから電源が来ていません。	電源コードをプロジェクタの電源コードソケットとコンセントに差し込みます。コンセントにスイッチがある場合は、スイッチがオンになっていることを確認します。
冷却プロセスの間にプロジェクタの電源をオンにしようとしています。	冷却プロセスが完了するまでお待ちください。

⑦ 画像が映らない

原因	対応
ビデオ ソースがオンになっていないか、正しく接続されていません。	ビデオ ソースをオンにし、信号ケーブルが正しく接続されていることを確認します。
プロジェクタが正しく入力ソース機器に接続されていません。	接続を確認します。
入力信号が正しく選択されていません。	プロジェクタまたはリモコンの **SOURCE**（ソース）キーで正しい入力信号を選択します。
レンズ キャップが装着されたままです。	レンズ キャップを取り外します。

⑦ ぼやけた画像

原因	対応
投写レンズの焦点が合っていません。	ピントリングで焦点を合わせます。
プロジェクタとスクリーンの位置が正しく合っていません。	投写角度および方向、また必要であれば装置の高さを調整します。
レンズ キャップが装着されたままです。	レンズ キャップを取り外します。

⑦ リモコンが機能しない

原因	対応
電池が切れています。	電池を新しい電池に交換します。
リモコンとプロジェクタの間に障害物があります。	障害物を取り除きます。
プロジェクタからの距離が遠すぎます。	プロジェクタから 6 メートル（19.5 フィート）以内の場所に立ちます。

⑦ パスワードが不正です

原因	対応
入力したパスワードが正しくありません。	詳細は、28 ページの " パスワードの呼び戻しを行うには " を参照してください。

8 仕様

プロジェクタの仕様

仕様はすべて予告なしに変更されることがあります。

全般	
製品名	デジタル プロジェクタ
モデル名	MP721/MP721c
光学	
解像度	1024x 768 XGA
表示システム	1-CHIP DMD
レンズ F/ 番号	F=2.6 ～ 2.77、f= 20.4 ～ 23.5 mm
ランプ	200W ランプ
電気仕様	
電源	AC100–240V, 4.0A, 50–60 Hz (自動)
消費電力	285W (最大)
機械仕様	
外形寸法	278 mm (幅) × 94 mm (高さ) × 219.5 mm (奥行き)
重量	水平サイズ（2.67）
入力端子	
コンピュータ入力	
RGB 入力	D-sub 15-pin （メス）x 1
DVI-I 入力	(DVI-A 信号使用)
ビデオ信号入力	
S ビデオ	Mini DIN 4-pin ポート x 1
ビデオ	RCA ジャック × 1
HDTV 信号入力	D-sub <--> コンポーネント RCA ジャック × 3、(RGB 入力経由)
オーディオ信号入力	
オーディオ入力	ミニ ジャック ステレオ ポート
出力	
RGB 出力	D-sub 15-pin （メス）x 1
USB マウス コネクタ	A/B シリーズ x 1
スピーカ	（ミックスモノ）2W x 1
使用環境条件	
動作温度範囲	0 ℃ ~ 40 ℃ (海抜)
操作時の相対湿度	10% ～ 90%（結露なきこと）
動作高度	• 0 ～ 1499 m (0 ℃ 35 ℃) • 1500 ～ 3000m (0 ℃～ 300 ℃)

タイミングチャート

PC 入力用にサポートされているタイミング

解像度	水平周波数（**kHz**）	垂直周波数（**Hz**）	ピクセル周波数（**MHz**）	モード
640 x 480	31.469	59.940	25.175	VGA_60
	37.861	72.809	31.500	VGA_72
	37.500	75.000	31.500	VGA_75
	43.269	85.008	36.000	VGA_85
720 x 400	31.469	70.087	28.3221	720 x 400_70
800 x 600	37.879	60.317	40.000	SVGA_60
	48.077	72.188	50.000	SVGA_72
	46.875	75.000	49.500	SVGA_75
	53.674	85.061	56.250	SVGA_85
1024 x 768	48.363	60.004	65.000	XGA_60
	56.476	70.069	75.000	XGA_70
	60.023	75.029	78.750	XGA_75
	68.667	84.997	94.500	XGA_85
1280 x 768	47.77	60.09	80.768	SXGA_60
1280 x 800	49.65	59.96	83.458	SXGA_60
1280 x 1024	63.981	60.020	108.000	SXGA_60

コンポーネント YP_bP_r 入力用にサポートされているタイミング

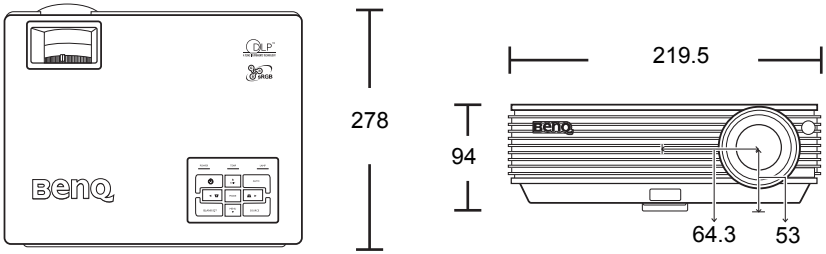
信号フォーマット	水平周波数（**kHz**）	垂直周波数（**Hz**）
480i(525i)@60Hz	15.73	59.94
480p(525p)@60Hz	31.47	59.94
576i(625i)@50Hz	15.63	50.00
576p(625p)@50Hz	31.25	50.00
720p(750p)@60Hz	45.00	60.00
720p(750p)@50Hz	37.50	50.00
1080i(1125i)@60Hz	33.75	60.00
1080i(1125i)@50Hz	28.13	50.00

ビデオおよび S ビデオ入力用にサポートされているタイミング

ビデオモード	水平周波数（**kHz**）	垂直周波数（**Hz**）	カラー副搬送波周波数 （**MHz**）
NTSC	15.73	60	3.58
PAL	15.63	50	4.43
SECAM	15.63	50	4.25 または 4.41
PAL-M	15.73	60	3.58
PAL-N	15.63	50	3.58
PAL-60	15.73	60	4.43
NTSC4.43	15.73	60	4.43

外形寸法

278 mm (幅) × 94 mm (高さ) × 219.5 mm (奥行き)



単位：mm

保証

限定保証

BenQ は、本製品が正常に使用および保管される場合に限り、本製品の材料および製造上の瑕疵がないことを保証します。

保証を受ける際には、購入日の証明が必要となります。保証期間中に本製品に瑕疵があることが判明した場合、BenQ の全責任と、お客様に対する全面的な補償は、瑕疵のある部品の交換（工賃を含む）に限られます。保証サービスを受ける場合は、製品を購入した販売店に直ちに連絡してください。

重要：お客様が BenQ の文書による指示に従わずに操作を行った場合はこの保証は無効となります。特に本製品は環境湿度 10% から 90% の間、温度 0 ℃ から 40 ℃ の間、高度 10000 フィート以下の環境でご使用になり、ホコリが立ちやすい場所での使用はお止めください。この保証により、お客様には特定の法的権利が与えられます。また、在住している国によっては、お客様にその他の権利が与えられることもあります。

詳細は、弊社ホームページ support.BenQ.com をご覧ください。

⑩ 法規

FCC 規則

B クラス : 本デバイスはラジオ周波エネルギーを発生、使用し、さらに放射する可能性があり、指示にしたがってインストールおよび使用しなければ、ラジオ通信に有害な障害を与える場合があります。しかしながら、特定の方法で設置すれば障害を発生しないという保証は何もありません。このデバイスがラジオや TV 受信装置に有害な障害を与える場合は（デバイスの電源を一度切って入れなおすことにより確認できます）、障害を取り除くために次の方法にしたがってください。

- 受信アンテナの方向を変えるか、設置場所を変える
- このデバイスと受信装置の距離をあける
- このデバイスの受信装置とは別のコンセントに接続する
- ディーラーか経験のあるラジオ /TV 技術者に問い合わせる

EEC 規則

本装置は、EMC（Electronic Magnetic Compatibility：電磁的両立性）に関する ECC 指令 89/336/EEC に適合することが試験の結果確認されています。

MIC 規則

B クラス装置（家庭用情報 / 電気通信装置）

本装置は家庭用として EMC 登録を受けているため、本製品は住居地域を含む任意の地域で使用できます。

WEEE 指令

ヨーロッパ共同体における家庭からの電子および電気製品の廃棄について。

本製品または梱包材料に記載されているこの記号は、これを家庭廃棄物として破棄することができないことを意味しています。電子または電気装置の再利用規定に基づいて処理してください。本装置の再利用についての詳しい情報は、お住まい地域の市役所、本製品を購入された店、または家庭廃棄物処理機関にお問い合わせください。素材の再利用は自然環境の保護に役立つと共に、人類の健康や環境を確実に保護する方法で再利用されます。